

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウホクコウエキブンカダイガク 学校法人 東北公益文科大学								
フリガナ大学の名称	トウホクコウエキブンカダイガク 東北公益文科大学								
大学本部の位置	山形県酒田市飯森山三丁目5番地の1								
大学の目的	教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神に則り、社会的利益調和の追求と、公益の研究や実践を通じた国際連携の理念のもと、深く専門の学術を教授し、社会と時代の要請に応え得る有為の人材を育成するとともに、地域の特性を活かした学術研究の振興、文化の向上に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	英語を主軸としつつ、多言語・多文化への理解と対応力も備えた言語運用能力と国際社会に対する洞察力をもち、異文化や自国の文化への深い見識と多文化共生を推進する能力を活かし、地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	国際学部 国際コミュニケーション学科  計	年 4	人 40	年次 人 -	人 160	学士（国際コミュニケーション）	文学関係、社会学・社会福祉学関係	年 月 第 年次 令和8年4月 第1年次	山形県酒田市 飯森山三丁目 5番地の1
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	公益学部 公益学科 [定員減] (△ 40) (令和8年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	国際学部国際コミュニケーション学科	講義 91科目	演習 65科目	実験・実習 14科目	計 170科目	124単位			
新設	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
			教授	准教授	講師	助教	計		
	国際学部 国際コミュニケーション学科		6人 (6)	5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	54人 (54)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	/	/
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）		6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（a～d）		6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
計		6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

既	公益学部 公益学科		17 (17)	11 (11)	2 (2)	3 (3)	33 (33)	0 (0)	54 (54)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 9 人
	設	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	16 (16)	9 (9)	2 (2)	2 (2)	29 (29)	/	/	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)				
小計（a～b）		17 (17)	10 (10)	2 (2)	3 (3)	32 (32)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)				
計（a～d）		17 (17)	11 (11)	2 (2)	3 (3)	33 (33)				
分	計		17 (17)	11 (11)	2 (2)	3 (3)	33 (33)	0 (0)	- (-)	
	合計		23 (23)	15 (15)	2 (2)	3 (3)	43 (43)	0 (0)	- (-)	
職 種		専 属			そ 他			計		
事 務 職 員		18人 (22)			21人 (20)			39人 (42)		
技 術 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
図 書 館 職 員		1 (1)			4 (4)			5 (5)		
そ の 他 の 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
計		19 (23)			25 (24)			44 (47)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	46790.20 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>		46790.20 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	16436.00 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>		16436.00 m <sup>2</sup>				
	合 計	63226.20 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>		63226.20 m <sup>2</sup>				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
		17364.67 m <sup>2</sup> (17364.67 m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> (0m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> (0m <sup>2</sup> )		17364.67 m <sup>2</sup> (17364.67 m <sup>2</sup> )				
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	24 室	教 員 研 究 室		59 室		大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学科単位での 特定不能 なため、大 学全体の数		
	国際学部 国際コミュニケーション学科	130,600 [13,200] (126,300 [13,100])	660 [130] (500 [110])	265 [57] (255 [51])	5 [5] (3 [3])	0 0	0 0			
	計	130,600 [13,200] (126,300 [13,100])	660 [130] (500 [110])	265 [57] (255 [51])	5 [5] (3 [3])	0 (0)	0 (0)			
スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂		厚生補導施設					
	1,323.59m <sup>2</sup>		0m <sup>2</sup>		1,975.51m <sup>2</sup>					

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	経費の見積り									
	教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	－千円	－千円		
	共同研究費等		1,064千円	1,064千円	1,064千円	1,064千円	－千円	－千円		
	図書購入費	1,718千円	552千円	552千円	552千円	552千円	－千円	－千円		
	設備購入費	11,218千円	1,500千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円		
	学生1人当り納付金		第1年次 1,120千円	第2年次 850千円	第3年次 850千円	第4年次 850千円	第5年次 －千円	第6年次 －千円		
学生納付金以外の維持方法の概要	雑収入等									
既設大学等の状況	大学等の名称	東北公益文科大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	公益学部 公益学科	4年	235人	3年次 10人	960人	学士(公益学)	0.88 0.88	平成13年度	山形県酒田市飯森山三丁目5番地の1	
	公益学研究科 公益学専攻	2年	30人	-	60人	修士(公益学)	0.31	平成17年度	山形県鶴岡市馬場町14番1号	
	公益学研究科 公益学研究専攻	3年	4人	-	12人	博士(公益学) 博士(学術)	0.08	平成19年度	同上	
	附属施設の概要	該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(国際学部国際コミュニケーション学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く の教員		
基礎 教育 科目	導入 科目 デ イ ー	現代公益論	1前		2			○				5	1			6	ホニマス・共同(一部)	
		基礎演習	1前	○	2				○			5	5					
		山形地域論	1後		2			○									9	ホニマス・共同(一部)
		小計(3科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	—	5	5	0	0	0	13	—
	リ テ ラ シ ー 科 目	情 報 科 目	情報リテラシー	1前		2				○							2	
			データリテラシー	1後		2				○							2	
			基礎プログラミングI	2前		2				○							1	
			基礎プログラミングII	2後		2				○							1	
		キ ャ リ ア 科 目	キャリアデザインa	1前		2			○								1	
			キャリアデザインb	2後		2			○								1	
	企業研究セミナー	3後			1		○								1			
	文章表現法	1後			2		○								1			
	日経講座：メガトレンド論	1後			2		○								1			
	ジャーナリズムの倫理	1後			2		○								1			
	小計(10科目)	—	—	12	7	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	5	—	
リ ベ ラ ル ア ー ツ ・ S T E A M 導 入 科 目	日経講座：デジタル社会論	1前			2		○									1		
	セキュリティ論	1後			1		○									1		
	AIと社会	1後			1		○									1		
	哲学	1前			2		○									1		
	倫理学	1前			2		○									1		
	文学概論	1後			2		○				1							
	心理学	1後			2		○									1		
	教育学	1後			2		○									1		
	日本史a	1前			2		○									1		
	日本史b	1前			2		○									1		
	西洋史a	1前			2		○				1							
	西洋史b	1前			2		○				1							
	英国庭園文化論	1後			2		○				1							
	人文地理学a	1前			2		○									1		
	世界地誌	1後			2		○									1		
	社会調査論a	1前			1		○									1		
	社会調査論b	1前			1		○									1		
	環境社会学	1後			2		○									1		
	政治学	1前			2		○									1		
	ミクロ経済学	1後			2		○									1		
	マクロ経済学	1後			2		○									1		
	法学	1前			2		○									1		
	ジェンダー論	1前			2		○									2	共同	
	貧困と福祉	1後			2		○									1		
	特別支援教育	1休			2		○									1		
	経済学	1前			2		○									1		
	統計学a	1後			1		○									1		
	統計学b	1後			1		○									1		
	数学a	1前			1		○									1		
	数学b	1前			1		○									1		
	物理学	1後			2		○									1		
	自然地理学a	1休			2		○									1		
	自然地理学b	1前			2		○									1		
	小計(33科目)	—	—	0	58	0	—	—	—	—	2	0	0	0	0	21	—	
英 語 科 目	EAP1	1前		2				○			1					1		
	EAP2	1前		2				○								1		
	EAP3	1後		2				○								1		
	EAP4	1後		2				○								1		

外国語科目	多言語科目	中国語初級Ⅰ	1前		2		○		1												
		中国語初級Ⅱ	1後		2		○		1												
		中国語初級Ⅲ	2前		2		○												1		
		中国語初級Ⅳ	2前		2		○												1		
		中国語中級	2後		2		○												1		
		中国語会話	2前		2		○												1		
		中国語リスニングⅠ	2後		2		○												1		
		ロシア語Ⅰ	1前		2		○												1		
		ロシア語Ⅱ	1後		2		○												1		
		ロシア語Ⅲ	2前		2		○												1		
		ロシア語Ⅳ	2後		2		○												1		
		韓国語Ⅰ	1前		2		○												1		
		韓国語Ⅱ	1後		2		○												1		
		韓国語Ⅲ	2前		2		○												1		
		韓国語Ⅳ	2後		2		○												1		
		日本語教育とやさしい日本語	1休		2		○												1		
		日本手話	1後		2		○												3		
		日本語演習a	1前		2		○												1		
		日本語演習b	1前		2		○												1		
		日本語演習c	1前		2		○												1		
		日本事情	1前		2		○												1		
		小計(25科目)	—	—	8	42	0	—			2	0	0	0	0	0	0	0	11	—	
		専門教育科目	共通専門科目	国際コミュニケーション概論	1前	○	2		○		3	1									オムニバス
				多文化共生論	1後	○	2		○		1										
				共創の技法入門	1後		2		○												1
社会学	1前			○	2		○		1										1		
小計(4科目)	—			—	8	0	0	—		3	1	0	0	0	0	0	0	2	—		
専門基礎科目	Ⅰ類	English PresentationⅠ	2前	○	2		○		1	1											
		英語学概論	2前	○	2		○		1												
		英米文学概論	2後	○	2		○			1											
		英語音声学	2後	○	2		○		1												
		Intensive ReadingⅠ	2後		2			○											1		
		Academic Writing	3後		2			○			1										
		Advanced English Communication	2前		2			○			1										
		English PresentationⅡ	3前		2			○			1										
		Intensive ReadingⅡ	3前		2			○											1		
		英文法	3後		2		○		1												
		英語音声学演習	3前		2			○		1											
		通訳演習	3休		2			○											1		
		Tourism English	2後		2		○				1										
		英語文学講読a	3前		2		○				1										
		英語文学講読b	3後		2		○				1										
	比較文学	3後		2		○		1													
	Ⅱ類	異文化コミュニケーション	2休		2		○												1		
		日本文化入門	2後	○	2		○		1										1		
		文化人類学	2前	○	2		○				1										
		質的調査法	2後	○	2			○			1										
		グローバル化時代の地域社会	2後	○	2		○		1												
		英国森林文化論	2前		2		○		1												
		英米文化論a	2後		2		○				1										
		英米文化論b	2休		2		○												1		
		国際化とインクルーシブ社会	3前		2		○												1		
		サブカルチャー論	3前		2		○												1		
		映像文化論	3後		2		○												1		
		国際メディア論	3前		2		○												1		
		庄内の食と文化	3休		2			○			1								2		
		日本外交史	2後		2		○												1		
		コミュニケーションの心理学	2後		2		○												1		
	多文化共生演習	2休		2			○											2			
	多文化フィールドワーク1	2後		2			○											1			
多文化フィールドワーク2	3前		2			○											1				
Ⅲ類	国際社会学	2前	○	2		○		1													
	国際関係学	2前	○	2		○			1												
	移民・難民論	2後	○	2		○		1													
	グローバル社会と経済	2後	○	2		○		1													
	社会調査演習	2後		2			○											1			

	国際社会と法	2前			2		○												
	農業食料論	3後			2		○			1									
	グローバルコモンズと法	3後			2		○				1								
	国際協力・開発論	3前			2		○				1								
	NPO・NGO論	3後			2		○											1	
	人権とソーシャルワーク	3前			2		○											1	
	東南アジアの政治と社会	2後			2		○			1									
	国際経営論	3後			2		○											1	
	国際観光論	2前			2		○											1	
	小計 (48科目)	—	—	0	96	0	—			6	5	0	0	0	0	0	0	19	—
応用演習科目	プロジェクト型応用演習Ⅰ	2後			2		○				2							3	
	プロジェクト型応用演習Ⅱ	3前			2		○				2							3	
	海外探究型実践プログラム	3前・後			2						2							2	共同
	社会実習 (インターンシップ)	2前			2													2	共同
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			0	3	0	0	0	0	0	0	5	—
専門演習	専門演習Ⅰ	3通	○	4			○			5	5								
	専門演習Ⅱ	4通	○	4			○			5	5								
	小計 (2科目)	—	—	8	0	0	—			5	5	0	0	0	0	0	0	0	—
発展教育科目	Active Listening and Reading (中級)	2前			2		○											1	
	Active Listening and Reading (上級)	3前			2		○											1	
	Intensive Listening and Reading	3後			2		○			1								1	
	中国語リスニングⅡ	3前			2		○											1	
	中国語講読	3前			2		○											1	
	中国語作文	3後			2		○			1									
	小計 (6科目)	—	—	0	12	0	—			2	0	0	0	0	0	0	0	4	—
教職課程	英語科教育法Ⅰ	1後			2		○											1	
	英語科教育法Ⅱ	2前			2		○											1	
	英語科教育法Ⅲ	2後			2		○											1	
	英語科教育法Ⅳ	3前			2		○											1	
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	11	—
留学外国語	短期留学a	2前			2													2	
	短期留学a (オンライン)	2後			2													1	
	短期留学b	2後			3													2	
	中期留学a	2前・後			6													2	
	中期留学b	2前・後			8													2	
	中期留学c	2前・後			10													2	
	小計 (6科目)	—	—	0	29	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	2	—
キャリア発展	アントレプレナーシップ入門	1前			2		○											2	共同
	アントレプレナーシップ基礎 a	1後			2		○											1	
	アントレプレナーシップ基礎 b	2前			2		○											1	
	アントレプレナーシップ基礎 c	2休			2		○											2	オムニバス・共同 (一部)
	アントレプレナーシップ応用 a	2後			2		○											2	共同
	アントレプレナーシップ応用 b	3休			2													1	
	小計 (6科目)	—	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	5	—
教職課程の設置により開設する授業科目	教職入門	1後			2		○											1	
	教育心理学	1後			2		○											1	
	憲法	1後			2		○											1	
	教育原理	2前			2		○											1	
	教育行政	2前			2		○											2	オムニバス・共同 (一部)
	道徳教育指導論	2前			2		○											1	
	特別活動指導法	2前			1		○											1	
	総合的な探究の時間の指導法	2前			1		○											1	
	生徒指導論	2前			2		○											1	
	進路指導論	2前			2		○											1	
	教育課程の編成とICT活用を含む教育の方法	2前			2		○											1	
	教育相談の理論と方法	2前			2		○											1	
	介護等体験	2前			2													2	オムニバス・共同 (一部)
	体育と健康a	2前			1													1	
	体育と健康b	2後			1													1	
	教育実習Ⅰ	4前			2													5	共同
	教育実習Ⅱ	4後			2													5	共同
	実習指導	4前			1		○											6	共同
	教職実践演習	4後			2			○										6	共同
小計 (19科目)	—	—	0	0	33	—	—			0	0	0	0	0	0	0	11	—	
合計 (170科目)		—	—	42	271	33	—			6	5	0	0	0	0	0	0	54	—

学位又は称号	学位（国際コミュニケーション）	学位又は学科の分野	文学関係、社会学・社会福祉学関係	
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等		
基礎教育科目から48単位以上（うち必修科目26単位）、専門教育科目と発展教育科目を合算して76単位以上（うち必修科目16単位）を修得すること。リベラルアーツ・STEAM導入科目から10単位以上を修得すること。 リベラルアーツ・STEAM導入科目の「日経講座：デジタル社会論」「セキュリティ論」「AIと社会」から2単位以上選択必修とする。 多言語科目の「中国語初級Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「韓国語Ⅰ」「日本語教育とやさしい日本語」「日本手話」「日本語演習a」から2単位選択必修とする。 専門基礎科目Ⅰ類の「English PresentationⅠ」「英語学概論」「英米文学概論」「英語音声学」「Intensive ReadingⅠ」から6単位、Ⅱ類の「異文化コミュニケーション」「日本文化入門」「文化人類学」「質的調査法」「グローバル化時代の地域社会」から6単位、Ⅲ類の「国際社会学」「国際関係学」「移民・難民論」「グローバル社会と経済」「社会調査演習」から6単位を選択必修とする。 留学外国語から2単位以上を選択必修とする。 外国語科目の「日本語演習a」「日本語演習b」「日本語演習c」「日本事情」は留学生のみ履修可能。  [履修科目の登録の上限] 直前セメスターのGPA3.0以上：24単位 直前セメスターのGPA1.5以上～3.0未満：22単位 直前セメスターのGPA1.5未満：20単位		1学年の学期区分	2期	
		1学期の授業期間	13週	
		1時限の授業の標準時間	105分	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際学部国際コミュニケーション学科)				
区目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	スタ デー ー 導 入 科 目	現代公益論	日本で唯一「公益」の名を持つ大学で学んでいくにあたって、公益を考え、公益を語ることは、とりわけ大切で欠かすことのできない「学び」である。本科目では、大学生活のはじめに、公益の基本概念や歴史的な変遷を学び、現代社会のなかで公益のもつ意義、公益をめぐる課題について知り、公益を考えるよりどころとなる軸について学ぶ。自分の頭で考え、他者の多様な考えを知り、それらをまとめ記録していく作業を通して、仲間とともに公益を考え、行動する大切さを学ぶ。 (12 神田直弥・⑤ 武田真理子・25 小野英一・22 青木孝弘/1回) (共同) 大学の歴史・公益学の歴史 (⑤ 武田真理子/4回) 公益という概念、公と私、ボランティア、地域社会 (22 青木孝弘/1回) 非営利組織と公益 (29 広崎心/1回) 企業と公益 (⑤ 武田真理子・25 小野英一・22 青木孝弘/3回) (共同) 中間ふりかえり、公益活動の実践から学ぶ、公益を実践するためのスキル (25 小野英一/1回) 不特定多数 (33 鈴木淳一/1回) 社会福祉と公益 (④ 樋口(山本) 恵佳/1回) 国際社会	オムニバス方式 共同（一部）
		基礎演習	○ この科目では、「異なる価値観・考え・行動様式を超えて共感を喚起する力（Power）」「異なる分野の人・資源が交わる場を創りつなげる力（Process）」「異なる文脈の知識を組み合わせて新たな価値を創り出す力（Product）」の「3つのP」からなる「知の編集力」のうち、各教員の専門分野に関連するテーマにより、「情報収集の技術」「文章の理解と作成」を養い、大学の学びへの導入を行う。	
		山形地域論	地域課題を解決するには、その地域の歴史や文化、自然環境、人口動態や産業構造、自治体や民間による各種インフラの整備状況や医療・福祉等の供給実態、国内外の地域との交流の現状などを理解することが不可欠である。本講義では、大学が所在する庄内地域を中心に、山形県の現状について理解を深めるとともに、学生一人ひとりが、自分事として、地域とどのように関わっていくかを考え、各人なりの展望を持てるようになることを目標とする。 (20 古山隆/2回) 山形の食糧とエネルギー、活気ある地域と山形を比較する (⑩ 渡辺暁雄/2回) 庄内藩の歴史と文化、北前船がもたらした文化 (18 呉尚浩/1回) 鳥海山と山麓の自然、及び飛島の自然について (⑧ 門松秀樹/3回) 山形の歴史 (22 青木孝弘/1回) 山形の文化 (38 張紅/1回) 地理 (34 小関久恵/1回) 福祉・医療 (25 小野英一/1回) 山形県内の自治体行財政 (13 三木潤一/1回) 山形県の経済状況 (20 古山隆・⑩ 渡辺暁雄・18 呉尚浩・⑧ 門松秀樹・22 青木孝弘・38 張紅・34 小関久恵・25 小野英一・13 三木潤一/1回) (共同) 総合討論	オムニバス方式 共同（一部）
リテ ラシー 科目	情 報 科 目	情報リテラシー	正しいコンピュータリテラシーの修得を目的とする1年次必修科目である。計算機の仕組みと基本操作・ネットワーク使用のモラルを学んだうえで、文字入力とタイピング練習、電子メールやワードプロセッサの操作等を実践しながら段階的に学び、最終的に総合課題の作成に取り組む。事前・事後学修ではタイピングの練習と課題作成を通して反復練習をし、コンピュータを文房具のように扱える技能の修得から始めて、単なる文房具以上の効果的な利用法に不可欠な理論を理解する。	
		データリテラシー	専門教育科目の学びが必要とされるデータを扱うための基礎的な力を身につける1年次必修科目である。主に表計算ソフトを利用してデータを集計・加工できるようになることで、データをさまざまな統計処理手法で取り扱う実践的な力を身につける。データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのかを理解するとともに、データを適切に読み解き理解する力をつけ、データを適切な可視化手法で他者に説明できるようになることを目標とする。	
		基礎プログラミングI	コンピュータを使ったものの考え方、論理の組み立てを修得する2年次必修科目である。計算機システムの基本概念と操作を理解したのち、やさしいプログラミング言語Rubyを通じて入出力処理の基本や配列などについて段階的に学ぶ。クラスを少人数のチームに分けて作品の設計にも取り組み、「基礎プログラミングII」の学びにつなげる。1年次から取り組んでいるタイピングの技能も確認する。計算機上での情報の取り扱い方の基礎を理解することを目標とする。	

		基礎プログラミングII	コンピュータ本来の可能性を引き出す自由なプログラムの作成により、問題解決能力の向上を図る2年次必修科目である。「基礎プログラミングI」での学びを踏まえて、より高度な情報処理技術を身につける。講義の終盤のチーム課題作成では、プログラミング知識を基盤とした情報処理技術を社会の問題に適用する情報システム構築活動を通し、実践的なデータ処理技術と情報表現力を磨き、課題解決のためのプロジェクトマネジメント力を培うことを目標とする。	
キャリア 科目		キャリアデザインa	本講義では、雇用労働を経済的視点から理解し、雇用労働者を守る各種法律や労働条件を理解するとともに、労働市場の特徴や雇用慣行の変化を踏まえて、働く目的や職業選択の価値観を育成する。大学初年次から自分ごと化として、働くことへの意識啓発を高めるとともに、100年ライフにおける職業生活のあり方や公共との関わり合いについての理解を深める。特に、「主体性」や「セルフマネジメント」等のスキルを育成しながら、他者の価値観を共有することにより、自分ごと化への意識啓発を高める。	
		キャリアデザインb	大方の場合、労働市場に参加することにより職業生活を送ることから、100年ライフにおいて豊かな人生を過ごすためには、経済リテラシーを身につける必要がある。そこで本講義では、市場経済と公共の役割を中心に、初歩的な経済リテラシーを身につけて、「日本の動きへの関心」を高めながら、公務員試験や就職活動への意識啓発を高め社会人になる準備を進めていく。「主体性」や「セルフマネジメント」等のスキルを育成しながら、他者からの体験談等を通じて自分ごと化への意識啓発を高める。	
		企業研究セミナー	本講義では、2月に開催する「就職ガイダンスin公益大」(オンライン方式)に参加するための事前準備として、①各自の職業選択基準の価値観を明確にするとともに、②企業研究レポートの作成を通じて、各自の職業選択基準の価値観に基づく企業選びを指導する。本講義の履修者には、その実践となる「就職ガイダンスin公益大」に参加することを義務付けるとともに、選択企業に関する企業研究レポートの提出を求める。公務員志望者の方も、本講義に積極的に参加することを推奨する。	
		文章表現法	さまざまな「書く」活動を楽しみながら、大学生として必要な文章作法や言葉の使い方を覚え、自分の思いや伝達事項を的確に効果的に伝える文章を書けるようになることを目的とする。表現力練習としての条件作文、就職採用試験に使われるテーマ作文や意見文、また個々の創造性を広げる文学的文章など、題材やテーマを広く取って作文の練習を行う。これらの活動を通して、何をどう考えるかという問題意識を磨くと同時に、生き生きした言葉を紡ぐ楽しさを見出すことを目標とする。	
		日経講座：メガトレンド論	副題を「今後30年の日本、そして世界の姿」として開講する。中長期的な視点で国際政治、世界経済、人口・環境問題から産業構造までの構造変化を見通す。分断と対立に直面する国際社会の課題を整理し、そのなかで日本が生き残るための道筋を考える。履修者には、世界の大きな潮流を読み取り、リスクを恐れず挑戦し、次の時代を形作るための長期的な視座を身につけてもらう。各産業の将来性を予想し、その仕事で働く意義を考えることで、職業選択の参考とすることも狙う。日本経済新聞社の各分野の専門記者が作成した資料をもとに解説する。	
		ジャーナリズムの倫理	大震災の被災地の取材に入ったら、がれきの中から声が…。救助するため取材を放棄すべきか――。助けて当然と思う人が多いだろうが、伝統的なジャーナリズムの教科書での正解はそうではない。不正を暴くためなら記者の身分を伏せて相手に近づいたり、隠れて録音したりすることは許されるか。これにも明確な正解はない。ニュース報道は人々の役に立つものであるはずだが、取材の過程では報じる側の論理と社会の倫理の板挟みになって苦しむことが珍しくない。深く入り込まなければよい取材はできないが、それによって傷つく人も出てくる。潜入取材、集団的過熱取材、オフレコ破りから取材先との癒着まで、取材の現場で実際に起きた問題を題材に討議し、社会に支持され公益の実現につながるジャーナリズムのあり方を考える。	
リベラル アーツ ・ S T E A M 導 入 科 目		日経講座：デジタル社会論	平成2(1990)年のWWW公開以降、デジタル化の進展で私たちの社会は大きく変わった。大量のデータを収集し分析する技術によって、「石油の世紀」に代わる「データの世紀」が到来した。買い物がスマホ一つで済んで便利になる一方、個人のあらゆる行動がデータとなって吸い上げられ、格差の拡大やプライバシーなどの問題も起きている。AIの発達によって人手不足が解消するとの期待がある一方で、職を失う人も出てくる。人類史に残る大変革の時代を私たちはどう生きていくのか。日本経済新聞社のベテラン記者が作成した資料をもとに、インターネット社会の課題解決の道筋を考える。	
		セキュリティ論	情報技術の高度化と普及に伴い、さまざまな情報技術が日常生活の隅々にまで浸透し、情報社会を形成している。本講義では、このような情報社会において重大な課題となっている情報セキュリティについて学ぶ。情報セキュリティ技術における基礎的な概念や具体的な内容を解説するとともに、実社会で用いられている情報システムの概要や、実際に発生した情報セキュリティに関連する事例なども取り上げる。またそれらの調査及び発表についても行う。	

AIと社会		Society5.0に向けてあらゆる人々の個人情報を集めたビッグデータの利活用が進んでいる。その背景にはAIの著しい進歩が深く関係している。本講義ではビッグデータとAIの利活用の事例を通じてその有効性と危険性について学ぶ。ビッグデータとAIの利活用やAIサービスの責任の所在、AIとデータの倫理について学び将来を予想する。また、自らの個人情報がどこでどのように利用されているかを調べ、個人情報とその保護について理解する。	
哲学		価値観の多様化が進む現代において、哲学的な思想に触れることのもつ意味は大きい。本講義では、重要な哲学者の思想を歴史の流れに沿って学ぶ。具体的には、次のようなテーマに即してみてゆく。神話から哲学へ、古代ギリシアの自然哲学、古代ギリシアの三大哲学者（ソクラテス、プラトン、アリストテレス）、中世哲学（アウグスティヌス、トマス・アクィナス）、中世の普遍論争（実念論と唯名論）、大陸合理論（デカルト）、イギリス経験論（ロック）、ドイツ観念論（カント）、フランス啓蒙思想と哲学（リスボン大地震とヴォルテール）、ニーチェ「神は死んだ」。この授業では、哲学の基礎知識を習得するとともに、柔軟な思考力と自ら考える力を養うことを目標とする。	
倫理学		倫理学は、つきつめていくと規範の根拠について考察する学問であり、本講義では社会における人間の行動や判断基準と深く関わる規範の根拠について考えていく。古代から現代の諸問題への時系列で講義を行い、東洋・西洋の代表的な理論を概観し、現代社会におけるさまざまな倫理的課題について考察する。倫理学における基礎的な概念を理解し、さまざまな社会規範を再確認し、現代社会における諸問題を自らの言葉で説明できるようになることを目標とする。	
文学概論		近代日本文学における短編小説や詩を読み、具体的作品に即して文学鑑賞と作品分析の方法を講義する。各自で文学作品を読んだうえで、授業で習った文学の鑑賞法及び分析法を用いて小レポートや期末レポートを書くことを通じて、作品の審美的効果や構造を分析するスキルを身につけ、文学と人間、文学と社会、文学と歴史との関係について考える。同時に、毎回の講義で戦後中心の一つの文学批評理論を簡潔に紹介する。文学の教養を身につけるのみならず、言葉の魅力のメカニズムについて考えることを通じて、感性に対する論理的な分析能力を体得することを目指す。	
心理学		本講義では、心理学の理論や基礎知識を学ぶことで、理論的思考力を養う。また、それらを事象の説明に用いることで、批判的思考力を養う。心理学の理論や基礎知識を理解し説明することができるようになること、及び心理学の理論や基礎知識を用いて事象を説明することができるようになることを目標とする。各回においては、発達、学習、感覚・知覚、動機づけ、知能、パーソナリティ、社会行動の発達、社会的影響について扱う。加えて、まとめとして、心理学史についても触れる。	
教育学		「教育」は、誰もが経験してきたものであるだけに、自らの経験から語られることが多いが、本講義では、教育の歴史（教育の概念、子ども観、学校の成立、教師の仕事等）や直面する現代的課題から「教育」に関する基本的概念について学び、考えることで、これまで経験してきた「教育」について客観化し、理解を深める。また、学校の働き方改革などをトピックとして取り上げる。「教育」について客観的に考え、教育学の諸概念や教育の本質についての基礎知識を身につけることを目標とする。	
日本史a		本講義では、古代から近世までを中心として、日本の歴史の大きな流れを理解するとともに、歴史的な史料や関連する文献の紹介・講読を通じて歴史的事実を考察することで、それぞれの時代における画期となるような論点に着目してその時代の特徴を学び、歴史を学ぶ意義についても考えていく。本講義は、日本史を総合的にとらえるとともに、それぞれの時代における特徴を理解し、ある時代やその事象が他の時代や事象とどのような関係を有しているのか、自分なりの言葉で説明できるようになることを目標とする。	
日本史b		本講義では、近現代を中心に日本の歴史の大きな流れを理解するとともに、歴史的な史料や関連する文献の紹介・講読を通じて歴史的事実を考察することで、日本近現代史における主要な出来事について学び、近代以降の歴史と現代社会のつながりや、歴史を学ぶ意義についても考えていく。本講義は、日本史を総合的にとらえるとともに、近代及び現代におけるそれぞれの時代の特徴を理解し、その時代や事象が他の時代や事象とどのような関係を有しているのか、自分なりの言葉で説明できるようになることを目標とする。	

西洋史a		昨今の急速なグローバル化に伴い、西洋の歴史を学ぶ重要性は益々高まっている。この授業では、古代から現代に至る西洋の通史を学ぶ。具体的には、次のような流れに沿って授業を進める。古代ギリシア・ローマ世界、ゲルマン世界、ヨーロッパ中世世界の成立と発展、大航海時代におけるヨーロッパ世界の拡大、宗教改革、絶対王政、フランス革命とイギリス革命、産業革命、帝国主義、二つの世界大戦と戦後の世界についてである。	
西洋史b		併設されている「西洋史a」では西洋の通史を学ぶが、この授業ではテーマ別に西洋の文化史を学ぶ。従来の歴史学はともすれば政治史が中心であったが、価値観の多様化する現代にあつて、文化史を学ぶことの意義は大きい。具体的には次のようなテーマを取り上げる。ケルト文化、古典古代の文化、中世の宗教建築と城、ルネサンス絵画と建築、大航海時代と食文化、バロック建築、印象派の絵画、万国博覧会とジャポニスムである。	
英国庭園文化論		この授業では、テューダー朝から現代に至る英国庭園の歴史をふり返りながら、英国の庭園文化について学ぶ。英国の庭園は、イタリアやフランスあるいはオランダの影響を受けながら形成され、18世紀に独自の英国式風景庭園を確立する。この授業では、具体的な庭園を取り上げながら、庭園様式の歴史の変遷をたどり、その成立背景や政治・社会との有機的関連、プラントハンターの果たした役割についても考察する。	
人文地理学a		私たちが住む地域は、さまざまな要因により常に変化し続けている。したがって、地域社会を考えるためには、地理的要素に注目することが必須である。人文地理学は、人間による活動の空間的構造や地理的特徴の解明を目的とする学問分野である。この科目では、人口の移動や自然条件の変化に伴い、都市や農村がどのように変化しているか、代表的な事例を中心に考察するとともに、地域社会を景観の変遷から読み解くことなどを通じて、人文地理学の方法について理解を深める。	
世界地誌		本講義では、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、オセアニア、アンゴロアメリカ、ラテンアメリカの中から特定の国と地域をピックアップし、地形・気候、歴史・文化、社会・経済、民族・言語など多角的なアプローチから、それぞれの特性を明らかにする。当該地域の人びとの生活の移り変わりにも着目し、暮らしへの理解を深める。折に触れて、各国の世界遺産を取り上げるほか、地球温暖化が世界のワイン産業に及ぼす影響にその一例をみるように、気候変動に伴う今日的な問題も考察する。この授業では、自然環境のみならず、民族や文化、産業や社会構造も含めた複合的な観点から地域を把握すると同時に、グローバルな視野に立って世界を俯瞰する目を養うことを目標とする。	
社会調査論a		何らかのテーマや問題関心に対応するための、「調べ⇒まとめ⇒発信する」という一連の能力。身近なところでは卒業論文やレポート作成のときに、そして将来、さまざまな仕事や地域生活の現場の中で必要となる。ここでは社会調査、特に「質的」な調査を行う上での基本的な技術や、調査の意義や注意について学ぶ。	
社会調査論b		何らかのテーマや問題関心に対応するための、「調べ⇒まとめ⇒発信する」という一連の能力。身近なところでは卒業論文やレポート作成のときに、そして将来、さまざまな仕事や地域生活の現場の中で必要となる。ここでは社会調査、特に「量的」な調査を行う上での基本的な技術や、調査の意義や注意について学ぶ。	
環境社会学		講義テーマ「いのち」を大切に作る公益社会を共創しよう！-各国で著しい経済成長が達成される一方、発展から取り残された地域や人々の存在、自然・文化へ対する負の影響から生じる環境・貧困・社会問題が深刻です。発展を経済面からのみ捉えるのではなく、人間存在を支えるあらゆる側面の調和を重視した持続的で内発的な社会、すなわち公益社会の実現が求められています。本授業ではこれからの「公益社会のビジョン」を考えます。	
政治学		本講義では、政治学がその対象としている「政治」とはそもそも何なのかということや、「政治」は、社会や経済など、日常の生活とどのような関係にあるのかということをも基本的な問題関心として、政治学における基礎的な概念等について説明を行うとともに、政治と社会や経済との関わりについて広く考察を進める。本講義は、政治学における基礎的な概念を理解し、説明できるようになることと、政治学における基礎的な概念を用いて現代社会における問題を自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。	

ミクロ経済学		経済学は単に机上の学問ではなく、現実の複雑な経済現象の本質を理解するために欠かせない。本講義の目的は、わが国が直面しているさまざまな問題を考える際の手がかりとして、ミクロ経済学の分析枠組みを把握し、経済学の発想を身につけることにある。ミクロ経済学では、個々の家計や企業の行動を分析し、市場の働きとその限界について考える。経済学の考え方を身につけるためには、問題練習等を通じて自ら考えることが重要であるため、基本的な概念・理論の説明、問題練習、問題の解説という流れで講義を行う。現実の経済現象を理解するためのツールとして、ミクロ経済学（中級レベル）の分析枠組みを獲得することと、獲得したミクロ経済学の分析枠組みを用いて現実の経済現象を説明し、ツールの有用性と限界を知ることが目標とする。	
マクロ経済学		経済学は単に机上の学問ではなく、現実の複雑な経済現象の本質を理解するために欠かせない。本講義の目的は、わが国が直面しているさまざまな問題を考える際の手がかりとして、マクロ経済学の分析枠組みを把握し、経済学の発想を身につけることにある。マクロ経済学では、国民所得の決まり方を分析し、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策について考える。経済学の考え方を身につけるためには、問題練習等を通じて自ら考えることが重要であるため、基本的な概念・理論の説明、問題練習、問題の解説という流れで講義を行う。現実の経済現象を理解するためのツールとして、マクロ経済学（中級レベル）の分析枠組みを獲得することと、獲得したマクロ経済学の分析枠組みを用いて現実の経済現象を説明し、ツールの有用性と限界を知ることが目標とする。	
法学		この授業では、法とは何か、法は私たちの日常生活にどのように関わっているのかについて考える。前半は刑罰の意義や刑事裁判など刑事法の基本的考え方について、後半は不法行為と契約法など民法の基礎について、教科書に基づきつつ検討する。また、受講者の関心に応じて、法をめぐる問題についても取り上げ、随時、質疑応答、討論の時間も設ける。法律学（主として刑法・民法）についての基礎・専門知識を修得することと、さまざまな政治・経済・社会問題を法的な視点から分析しその解決を図るといった法的思考力を養成することを目標とする。	
ジェンダー論		本講義では、SDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」の意義・内容・方策について学んでいく。現代日本社会のさまざまな現象をジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）の視点から読み解き、ジェンダー平等実現に向けた課題を理論的、体験的に理解する。学校、職場、家族、地域社会など、身近な課題を自分事としてとらえて解決策を探究し、性別にかかわらず、多様な人々が互いに尊重し共生する公益社会を展望するとともに、各自のジェンダー課題に向き合うことを目標とする。	共同
貧困と福祉		国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の目的は「我々の世界を変革する」、すなわち、私たち一人ひとりが世界を変革することにある。本講義では、SDGsの17の目標1「貧困をなくそう」について考え、行動するきっかけとして、「学費が払えない」「自然災害に見舞われる」等、具体的なリスクを取り上げ、その内容と対応策について、グループワークと個人ワークを通じて調べ、考えていく。このことを通して、人生の中で自分が貧困に陥りそうになった時にどうするか、さらには、そうした貧困リスクを回避するために私たち一人ひとりに何ができるかについて考える。	
特別支援教育		文部科学省（2022）の調査によると通常学級の小・中学校で8.8%、高等学校で2.2%の割合で特別な支援が必要な児童生徒が在籍している。今や全ての人にとって障害のある人たちを正しく理解することは益々重要になり、とりわけ教育や福祉に対する社会的なニーズも多様化している。この講義では、様々な障害のある子どもの教育的ニーズの理解や支援のあり方を考え、「特別支援教育」の理念や制度、さらには共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育システムの構築」の現状と課題について理解を深める。	
経済学		経済学は単に机上の学問ではなく、現実の複雑な経済現象の本質を理解するために欠かせない。本講義の目的は、入門レベルのミクロ経済学とマクロ経済学それぞれの基本的な考え方を把握し、経済学の発想を身につけることによって、わが国が直面しているさまざまな政治経済問題を考える際の手がかりを提供することにある。経済学の考え方を身につけるためには、問題練習等を通じて自ら考えることが重要であるため、基本的な概念・理論の説明、問題練習、問題の解説という流れで講義を行う。需要と供給が、価格の調整によって均衡することを理解できるようになることと、市場の働きとその限界、市場を補う政府の役割といったことについて理解できるようになることを目標とする。	

		統計学は確率論をもとにさまざまなデータの中から規則性を見いだす学問である。統計学は社会のあらゆる場面で使われており、その応用の範囲は幅広い。本学の講義や演習の中でもさまざまな場面で活用できるだろう。本講義では統計学の原理と手法を学び、実際に使えるようになることを目指す。統計学の考え方、分布の特性値、確率と確率分布、正規分布を含めたさまざまな確率分布等を学び、最終的には中心極限定理を理解する。確率分布を用いた計算に慣れる。統計学の原理を理解することで論理的思考力を養う。	
		統計学は確率論をもとにさまざまなデータの中から規則性を見いだす学問である。統計学は社会のあらゆる場面で使われており、その応用の範囲は幅広い。本学の講義や演習の中でもさまざまな場面で活用できるだろう。本講義では統計学の原理と手法を学び、実際に使えるようになることを目指す。母平均や母分散の推定、母平均や母分散の仮説検定と相関分析、単回帰分析と重回帰分析等について学び、2次元データを使って相関分析と単回帰分析が行えるようになる。統計学の原理を理解することで論理的思考力を養う。	
		「宇宙（自然）は数学という言葉で書かれている」とはガリレオ・ガリレイの言葉である。数学は今や自然科学だけでなく、人文科学や社会科学等のさまざまな学問において言語の一つとして使われている。本講義では、高校の数学をベースとして、大学の経済学などで必要とされる基礎的な数学を身につけるために、指数・対数・数列・級数・ベクトル・行列を取り上げ、最後にまとめ学習を行う。線形代数の基礎を身につけることを目標とする。	
		「宇宙（自然）は数学という言葉で書かれている」とはガリレオ・ガリレイの言葉である。数学は今や自然科学だけでなく、人文科学や社会科学等のさまざまな学問において言語の一つとして使われている。本講義では、高校の数学をベースとして、大学の経済学などで必要とされる基礎的な数学を身につけるために、1次関数・2次関数、1変数の微分・多変数の微分、関数の増減と最適化の問題、積分を取り上げ、最後にまとめ学習を行う。微分積分の基礎を身につけることを目標とする。	
		身の回りの自然現象について、なぜこういう現象が起こるのだろうかと思いついたことはないだろうか。物理学は、理論を立て実験で検証することで自然現象の従う基本法則を明らかにしようとする学問である。本講義では、物質の密度、重力加速度、弦の振動、光の環境と回折などの理論を学ぶとともに、原則ペアを組んで行う実験を通して、物理学を体験的に理解する。さまざまな自然現象を物理学の理論と実験を通じて理解し、科学的な見方や考え方を学ぶ。実験データの解析により計算能力を身につけ、実験結果を分析し考察できるようになる。	
		自然地理学は地形、気候、水文、植生、土壌等から、地域の自然環境の特徴をとらえる学問分野である。本講義では、その中の地形学分野の基礎を、室内での講義や受講生間のディスカッションを通じて学ぶ。この講義の目標は、地形の成り立ちや形成環境の理解を通じて、自然地理学的なものの見方を習得することにある。さらにこの講義の中では、自然地理学に関する学術情報を地球遺産の保全の促進と持続可能な社会の構築に活用している事例として、ジオパークというユネスコプログラムを採り上げ、その理念やジオパークの認定地域内で展開されている実質的な活動も紹介する。	
		ある場所での大気の状態を1年間の変化の中でとらえたのが気候である。本講義では、気候学関連の基礎的部分を学ぶ。地理学・自然地理学の基本的な考え方について学んだ後、気温や風、降水量といった大気現象と人間生活との関連を扱う。大気現象・気候について日常生活で気付けるようになることを目標とする。	
外国語科目	英語科目	EAP1	自分の専門分野や興味に関連したテーマについて、事実にもとづいたわかりやすい英文を読んで十分に理解できるようになることを目的とする。スキミングなどのリーディングスキルを活用してさまざまなトピックを扱った英文の速読を行うとともに、英語の語彙力の向上を図る。主に英語の「読む力」を養成し、CEFR B1レベル相当以上（TOEIC®L&RのReading 275点以上）の定着を図る。
		EAP2	仕事、学校、レジャーなど普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方であれば、主要な点を聞いて理解できるようになることを目的とする。自然な速さの標準的な英語で話されれば、英語で行われる講義の内容やネイティブスピーカー同士の会話の要点を理解できるようになることを目指す。主に英語の「聞く力」を養成し、CEFR B1レベル相当以上（TOEIC®L&RのListening 275点以上）の定着を図る。

	EAP3	英語の話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に英語で対処することができるようになることを目的とする。自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、一定程度議論できることを目指す。主に英語の「話す力」を養成し、CEFR B1レベル相当以上 (TOEIC® S&WのSpeaking 120点以上) の定着を図る。	
	EAP4	身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通ったわかりやすい文章を英語で書くことができるようになることを目的とする。パラグラフ単位でのライティングの基本について学び、さまざまな論理展開のパラグラフ・ライティングを理解して、英語でのレポートやリアクションペーパーに必要となる「書く力」の基礎を養成する。主に英語の「書く力」を養成し、CEFR B1レベル相当以上 (TOEIC®S&WのWriting 120点以上) の定着を図る。	
多 言 語 科 目	中国語初級Ⅰ	初級Ⅰは初修者むけの発音、挨拶、最も基本的な文型を修得する中国語の入門レベルに当たる。①音節レベルでの発音(声調、母音、子音)を一定程度の精度で発音し聴き取ることができるようになるとともに、その表記法(声調記号とピンイン)に慣れる。②数字や基本的な挨拶言葉、自己紹介の表現を身につけるとともに、最も基礎的な動詞述語文(一般的な動作動詞「～する」や「～である」を使う文)、形容詞述語文、簡単な疑問詞疑問文、最も使用頻度の高い助詞の用法を修得する。中国語検定準4級レベル到達にむけた基礎づくりをする。	
	中国語初級Ⅱ	初級Ⅱでは初歩的な文法等を学ぶ。①数字に関連する年月日や時刻などの表現を身につけるとともに、所有と存在「～ある、～いる」を表す動詞述語文、物の数え方(助数詞の用法)、連動文、前置詞(動作が行われる場所を表す“在”「～で」や動作を共に行う相手を表す“跟”「～と」などの用法)、疑問文の数種の文型などを修得する。②発音や文法の練習を通して基礎的な語彙を500語程度覚える。中国語検定準4級レベル以上の中国語力をもつようになる。	
	中国語初級Ⅲ	初級Ⅲでは簡単な会話と作文ができるようになることを目指す。①短めの文を一定程度の精度で発音し聴き取ることができるようになる。②助動詞を使って希望・必用・能力を表現するとともに、助詞を使って変化・完了・持続を表現する勉強をする。③中国語の特徴である補語(動作の時間や回数、様態などを補足説明するもの)の用法などを修得する。中国語検定4級レベル到達にむけた基礎づくりをする。	
	中国語初級Ⅳ	初級Ⅳでは中国語の基本文法を全体的に理解し、ある程度本格的な会話、読み書きができるようになることを目指す。①やや長めの文を一定程度の精度で発音し聴き取ることができるようになる。②動作の結果や方向を補足説明する補語の用法、経験を表す助詞の用法、禁止の表現、近未来「もうすぐ～する」の表現を学ぶ。③既に発生した事柄についてその時期や場所などを説明する“是～的”構文などを修得してもらう。発音や文法の練習を通して常用語を1,000語程度身につける。中国語検定4級レベル以上の中国語力を養う。	
	中国語中級	初級の語句・文法を復習し定着をはかるとともに、そこからレベルを上げて、それらを応用した表現や新たな語句・文法を練習し全体的にステップアップの勉強をする。①ひとまとまりの会話や文章を一定程度の精度で発音し聴き取ることができるようになる。②使役文や受け身文、処置文(前置詞“把”を使った構文)、補語(動作の方向を補足説明するものの派生用法や可能・不可能の意味合いを補足するもの)、接続詞と呼応の表現などを習得する。中国語検定3級レベル到達にむけた基礎づくりをする。	
	中国語会話	初級段階で習得した基本的な語句・文法を使って日常的な会話を練習し、日常生活において簡単な意思疎通ができるようにする。①音節レベルでの発音の精度と文レベルでのリスニング力を更に高めるとともに、会話が行われる状況を踏まえて抑揚や強勢などの韻律も意識しながら練習し、より自然な発音で会話できるようにする。②既習の語句・文法を実際に使う力を養うとともに、基本的な語句・文法以外でも日常生活でよく使われる慣用表現なども習得する。	
	中国語リスニングⅠ	初級段階で習得した基本的な語句・文法を使ったひとまとまりの会話や文章を聴き取る練習を繰り返しリスニング力の向上を目指す。会話の聴き取りでは特に疑問詞疑問文を中心とした疑問表現の聴き取りに重点をおいて練習する。文章の聴き取りでは全体的な内容理解に重点をおいて練習する。聴き取り練習を通して既習の語句・文法の定着をはかるとともに、練習内容の難易度を徐々に上げながら未習の語句・文法も身につけていく。中国語検定3級レベル到達にむけリスニング力を養う。	
	ロシア語Ⅰ	初めてロシア語を学ぶ学生を対象に、文字と発音、文法と単語などロシア語の基礎を学び、初歩的なコミュニケーション能力を養う。日々の授業の構成は、テキストに沿って、新出単語の確認から始まり、聞き取りと反復練習を行った後、朗読と翻訳をする。さらに、重要語句や表現を暗記し、状況に応じて使い分けられるようにトレーニングを積む。最後に対話練習と練習問題を行う。また、教科書だけでなく視聴覚教材を用いてロシア文化を紹介し、異文化理解を深める。	

ロシア語Ⅱ		ロシア語の基礎を学んだ学生を対象として、文法事項の確認をしながら、会話の例文から名詞・形容詞の種類や動詞の活用と時制等を学び、簡単な文が作れるようになることを目標とする。また、会話表現の幅を広げるため、どこで誰が何をしているのか等、動詞の語尾変化を修得し、ロシア語でのコミュニケーション能力向上を目指す。「ロシア語Ⅰ」に引き続き、視聴覚教材を用いてロシア文化を紹介し、異文化理解を深める。	
ロシア語Ⅲ		ロシア語を1年以上学んだ学生を対象として、文例などをもとに、動詞の体や前置詞と名詞の関係などを学び、簡単な文章が読めるようになることを目標とする。主語、直接目的語、間接目的語など、文の中で単語がどのような役割を果たすのかを示す概念である「格」を理解し、会話でも使いこなせるレベルにまで定着させる。また、視聴覚教材で取り上げる題材を通して、ロシアでの生活や特有の習慣についての知識を得る。	
ロシア語Ⅳ		ロシア語の初級文法を一通り学んだ学生を対象として、複文や仮定法などより高度な文法を学び、辞書を引きながらロシア語の詩や小説が訳せるようになることを目指す。仮定法を使い、会話の中で願望を丁寧に表すことができる婉曲表現を学ぶ。最後に、今まで修得した文法事項をコミュニケーションに活用してみる。「ロシア語Ⅲ」に引き続き、視聴覚教材で取り上げるテーマを通してロシア文化や生活習慣についての知識を得て、異文化理解を深める。	
韓国語Ⅰ		韓国語Ⅰは初修者向けの発音、挨拶、基本的な文法の習得を目指す。ハングル文字と発音について規則を理解し、簡単な文字が読めるようにする。①発音：基本母音、子音（平音、激音、濃音）基本的な発音や聞き取りが出来るようにする。簡単なハングルを用いて、積極的に発話、発音できるようにする。②基本的なあいさつ言葉、自己紹介の表現が出来るように名詞に「～です」を使う文が言えるようにする。数字の基礎の表現を学ぶ。③パッチム、また、合成母音を学び文字が読めるようにする。④日本語のハングル表記を使って、名前や地名などが書けるようにする。	
韓国語Ⅱ		韓国語Ⅱは初級にあたり、入門での基礎を把握し、勉強に入る。基本的な語彙の発音ができるようにする。韓国語で簡単な会話ができるようにする。①漢数字と固有数字を学び、年月日や時刻などの表現を身につける。②とともに、平常文「～です。」疑問文「～ですか。」否定文「～ではありません。」の数種類の文型を習得する。③発音や文法の練習を通して基礎的な語彙を覚える。④助詞の基本的な使い方を覚えて、文章をならべることが出来るようにする。韓国語能力試験1～2級レベル以上の韓国語力が身につくことを目標とする。	
韓国語Ⅲ		韓国語Ⅲは簡単な会話と作文ができるようにする。短い文の発音や聞き取りが出来るようにする。また、動詞の活用を学び、自然な表現ができるようにする。①過去形、未来形を習得して、過去や未来の出来事について話すことができるようになる。②敬語を使って、目上の人と話すことを目指す。③理由、原因、仮定、条件、能力、可能など、いろいろな用法などを習得し、簡単な会話ができるようにする。韓国語能力試験3級レベル到達にむけた基礎づくりをする。	
韓国語Ⅳ		韓国語Ⅳは準中級レベルにあたる。韓国語の基本文法を全体的に掌握し、ある程度基礎的な会話、読み書きができるようにする。やや長めの文を正確に発音し、聞き取ることが出来るようにする。①動詞、形容詞の連体形を学び、過去、現在、未来を表現することができるようにする。②並列表現を学び、二つ以上の文をつなげることが出来るようにする。③不規則活用ができるようになり、簡単な文が作れる。④間接話法語彙のまとめ、話す練習、聞き取りながら書く練習を取り入れて、積極的にコミュニケーションを図りながら韓国の文化、歴史、日本との関わりを学ぶ。韓国語能力試験4級レベル到達にむけた基礎づくりをする。	
日本語教育とやさしい日本語		日本における多文化共生社会の実現には、日本人と外国人が相互に歩み寄りながらコミュニケーションをとることが欠かせない。本科目では、国内外の日本語教育の現状、多様化するニーズ、日本語教育の観点から見た日本語文法体系や運用に関する基礎的知識を学んだ上で、「やさしい日本語」の有効性や活用方法、文章や会話構築のための基本ルールを学習する。実際に庄内地域の在住外国人とのグループワークを通して「やさしい日本語」の演習を行い、実践的に学ぶ。	

			<p>手話は一つの言語であるという理解が少しずつ広がっている。障害者権利条約においても、わが国の改正障害者基本法においても手話は言語であると明記されている。これは、ろう者コミュニティの長年にわたる働きかけの結果でもある。</p> <p>本講義では、「言語のダイバーシティ」という視点と、言語のもつ情報保障という観点から、「手話は言語である」ということの意味とその背景、さらに手話を必要としている人々についての理解を深めた上で、日本手話の基本を身につけることを目的とする。</p> <p>(⑫高橋純・⑬齋藤ゆみ・⑭澤邊みさ子)／2回 日本手話の体験、「手話は言語」の意味、ろう者について  (⑭澤邊みさ子)／3回 ろう者コミュニティの活動の歴史、ろう者・聴覚障害者の情報保証  (⑫高橋純・⑬齋藤ゆみ)／8回 日本手話演習</p>	オムニバス方式 共同（一部）
		日本語演習a	<p>日常的な場面を中心にさまざまな話題に関して読解練習や会話練習、リスニング練習を行い、既習の語句や文法の定着をはかるとともに表現の幅を広げていく。読解は内容理解に重点を置きつつ読解スピードの向上も意識した練習を行う。会話とリスニングの練習は自然に近いスピードで行い、話の要点をすばやく把握する力を養うとともに、質問に対する答えや自分の考えをある程度正確に表現する力を養う。N2レベルの語句・文法の定着をはかるとともに日常的な場面での日本語運用能力を高める。</p>	
		日本語演習b	<p>日本語演習aに引き続きさまざまな話題に関してやや難易度の高い読解練習や会話練習、リスニング練習を行い、既習の語句や文法の定着をはかるとともに表現の幅を更に広げていく。読解は内容理解に重点を置きつつその精度やスピードの向上も意識した練習を行う。会話とリスニングの練習はほぼ自然なスピードで行い、話の要点をすばやく把握する力を養うとともに、質問に対する答えや自分の考えをほぼ正確に表現する力を養う。日常的な場面での日本語運用能力を更に高めるとともに、N1レベル到達に向け読解力やリスニング力を養う。</p>	
		日本語演習c	<p>日本語演習bに引き続きさまざまな話題に関してより難易度の高い読解練習や会話練習、リスニング練習を行い、既習の語句や文法の定着をはかるとともに表現の幅を更に広げていく。読解は内容理解に重点を置きつつその精度やスピードの更なる向上を意識した練習を行う。会話とリスニングの練習は自然なスピードで行い、話の要点をすばやく把握する力を養うとともに、質問に対する答えや自分の考えをほぼ正確かつ適切に表現する力を養う。幅広い場面での日本語運用能力を高めるとともに、N1レベルの読解力やリスニング力を養う。</p>	
		日本事情	<p>日本の自然や暮らし、文化、習慣などさまざまな話題に関する文章を読み日本に対する理解を深める。またそれをもとに母国の状況について紹介したり、日本と共通する点や異なる点について話し合い、自身が体験したことや感じたことなどを発表することで異文化理解についても考える。それと同時に幅広い話題に関する文章を読むことを通して読解力を高め、またその話題に関する話し合いを通してほぼ自然なスピードの日本語を聴き取る力や、より正確かつ適切に自分の考えを表現する力を養う。</p>	
専門教育科目	共通専門科目	国際コミュニケーション概論	<p>本講義では、グローバル化が進む現代社会において、異なる文化背景を持つ人々がお互いを理解し、円滑なコミュニケーションをとるために必要な知識とスキルを習得することを目的とします。このため、文化の違いがコミュニケーションに与える影響や、グローバル化が文化とコミュニケーションに与える影響を深く分析し、異文化理解を深め、多様な価値観を尊重する態度を養います。また、相互理解を深めるための具体的なコミュニケーションスキルの獲得に取り組みます。</p> <p>Course will be taught in Japanese and English. Assignments are sometimes required to be completed in English.</p> <p>(オムニバス方式／全13回)  (2 富田かおる／3回) 音声学  (3 星宏人／4回) 多様なコミュニケーション、まとめ  (① 崔博憲／3回) 導入、マイノリティ。グローバル化  (10 横田浩一／3回) 文化、エスニシティ</p>	オムニバス方式
		多文化共生論	<p>1990年代以降、経済構造や人口動態が大きく変化するなかで均質性がその特徴とされてきた戦後日本の多文化化、多国籍化、多民族化が進み、近年ではその流れがさらに拡大している。この授業では、こうした日本社会の多様化について学ぶことを主眼とするが、元々日本社会に存在していた多様な人びとについても学習する。まず多文化共生理念の由来や日本が歴史的に異民族にどのように向き合ってきたのかを学んだうえで、現代日本を構成するさまざまな属性の人びとやアイデンティティについて理解する。また、地域社会のなかで多文化共生の当事者となっている外国人との交流も行う。</p>	

			多様な言語、文化、思考方法、価値観への理解を示し、尊重することができる態度を養い、日本語及び英語による他者との対話（聴く及び話す）の力を身に付けることを目的とし、ファシリテーションを中心とした共創のための技法の理論と方法論を学ぶ。講義だけでなく、受講生とのグループワークを中心とした演習の時間を設けることにより、主体的、実践的に学修する。多文化共生コーディネーター養成プログラムの必修科目としても開講する。		
			前半では人と社会との関わりを、「集団」、「組織」、「家族」、「地域」、「相互行為」の視点から考える。また後半ではE・デュルケムやM・ヴェーバーらの社会学の名著を通して、社会的想像力・実践力を身につける。  (オムニバス方式/全13回) (① 崔博憲/2回) 地域社会、アイデンティティ (⑩ 渡辺暁雄/11回) 集団・組織、家族、社会的相互行為と日常生活、自殺、犯罪と殺人、デュルケム、ヴェーバー	オムニバス方式	
専門基礎科目	I類	English Presentation I	○	本授業では、国際的な聴衆に向けた適切な英語プレゼンテーションの表現方法を身につけることを目的とする。さまざまな英語プレゼンテーションのテクニック及びテーマにもとづいた言語内容について学ぶ。学生はそれぞれ3回発表を行い、①基本的なスキルを学ぶ、②導入プレビューと結論でのスキルを学ぶ、観光地についてのプレゼンテーションを行う、③自分の考えをまとめたトピック・ステートメントと結論の合図などの仕方について学び、アンケート調査結果に関するプレゼンテーションを行う。学生間で相互評価を行い、英語発信力の向上を図る。	
		英語学概論	○	学生に音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、英語史及び国際語としての英語の実態等の重要な英語学分野を幅広く紹介し、その本質について学生と討論する。授業では、できる限り英語を使って学生と対話し議論する。コースの前半からグループに分かれて準備を始め、コースの後半では庄内地方等の中学校あるいは高等学校を訪問し、コースで学んだことの英語学習及び英語教育への重要性を地域の生徒たちに伝える。	
		英米文学概論	○	イギリスとアメリカの著名な作品や特色ある作品を取り上げ、テキストの抜粋を精読しながら英語の様々な表現を学び、地域や文化的な影響の観点から作品を分析・考察する。また、作品が与えた影響や意義などを検討しながら、作品への評価や再評価について学ぶ。映画化されている作品については、読解した場面の映像を見て確認を行う。	
		英語音声学	○	音声の構造について、デイビッド・クリスタルの著書 The English Linguistics からの引用を読みながら、英語教育に関わる諸項目を取り上げ深く学ぶ。英語音声学は発音記号や数値、発声器官、波形図等、厳密な定義が要求される、決して心地よいとは言えない複合領域からなる学問分野である。笑わない音声学の諸項目を真面目に追及し、その面白味に近づく事を目指したい。	
		Intensive Reading I		砂漠化や地球温暖化等の環境問題や科学の基本概念に関する英文を精読して理解を深め、英語の語彙力向上を図るとともに、英文読解力を養成する。英文読解力を向上させるために、主題の把握や推測読み等のさまざまなリーディング・スキルを理解し、文系理系を問わず今後重要となる科学技術英文の内容を理解できるようにする。CEFR B2レベル相当以上 (TOEIC®L&RのReading 385点以上) を目指す。	
		Academic Writing		ブレインストーミングや英文の編集の仕方などを学び、プロセス・アプローチの手法により、英文のパラグラフからエッセイ作成までのプロセス（書く過程）に重点を置いて、アカデミックな枠組みの中で、さまざまな表現方法（物語、描写）を学び、参考文献を読んでオピニオン・エッセイなどの書き方について実践的に学ぶ。また、ビジネスメールの書き方や、アカデミック・エッセイの参考文献の書き方についても学ぶ。	
		Advanced English Communication		本授業では、英語でディスカッションやタスク中心学習を行い、学生がより自然な英語を理解できて産出できるようにすることを目的とする。ディスカッションはPDR (P:Preparation, D:Discussion, R:Reaction) メソッド方式で、ディスカッションの準備、ディスカッション、ディスカッションへの応答の流れで行われる。リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングを統合してスキル向上に取り組むことで、コミュニケーション能力の向上を図る。	
		English Presentation II		本授業では、国際的な聴衆にむけたより高度な英語プレゼンテーションの表現方法を身につけることを目的とする。学生はそれぞれ3回発表を行い、①聴衆からの質問への回答法、②効果的な強調や間の取り方を学び、若者に関心のある話題についてプレゼンテーションを行う、③ブレインストーミングやグループ発表での役割分担、意見を強調する方式のプレゼンテーションを行う。学生間で相互評価を行い、より一層の英語発信力の向上を図る。	

		パンデミックや遺伝子組み換え等の地球規模の問題や科学技術に関する英文を精読して理解を深め、図表と関連づけながら英文を読み取るなどして、より高度な英文読解力を養成する。英文読解力を向上させるために、未知語の推測やスキミング・スキミング等のさまざまなリーディング・スキルを目的に応じて使い分け、文系理系を問わず今後重要となる科学技術英文の要点を理解できるようにする。 CEFR B2レベル相当以上 (TOEIC®L&RのReading 385点以上) の定着を図る。	
	英文法	学生に先ず、英文法理解の基盤となる文法、品詞、文法役割、時制、アスペクト、基本的文構造等の基礎的文法概念を理解させる。次に、否定、否定のスコープ、情報構造等の特質について学生に自ら考察させ、その特質を討論する。授業では、できる限り英語を使って学生と対話し議論する。コースの前半からグループに分かれて準備を始め、コースの後半では庄内地方等の中学校あるいは高等学校を訪問し、コースで学んだ英文法が英語学習及び英語教育に重要であることを地域の生徒たちに伝える。	
	英語音声学演習	音声の構造について、デイビッド・クリスタルの著書 The English Linguistics からの引用を読みながら、英語教育に関わる諸項目を取り上げ深く学ぶ。英語音声の習得は理論に基づく実践が要求される、決して心地よいとは言えない複合領域からなる学問分野である。笑えない音声習得の諸項目を真面目に追及し、その面白味に近づく事を目指したい。	
	通訳演習	本演習では、基本スキルの習得に加え、通訳者としての心構え、倫理観、及び語学力向上にむけた日々の研鑽の重要性に焦点を当てる。英語発音の明瞭性の改善、英日及び日英のクイックリスポンス、サイトトランスレーション、パラフレーズなどのトレーニングを行う。昨今のAIによる機械翻訳の利用が普及するなかで、必要とされる通訳者として技術を駆使しながらも、主体的にコミュニケーションを促進する手法について考察する。	
	Tourism English	本授業では、観光業界に特化した知識と観光英語を身につけることを目的とする。観光業、航空業、宿泊業、テーマパークなどの分野に焦点を当て、①観光業の仕事、②航空会社の仕事、③観光地などについての発表を行う。観光英語に関心があり接客業に就職を希望する学生だけでなく、ビジネスや留学又はレジャーで海外旅行をする際に必要となる観光英語の基礎づくりをする。	
	英語文学講読a	英語圏の代表的な短編や特色のある短編の講読を通して、英語のさまざまな表現を学びながら、文学作品を鑑賞する。鑑賞に当たっては、とりわけ作品中に情景や人物の心理描写として描かれる比喩的表現描写に着目し、その表現がどのような意味をもつ可能性があるのかについて考察していく。一通り読解した後は、作品についての感想、意見を発表する場を設けることにしたい。情景・登場人物の心理描写を理解することを通して、英語の豊かな表現を身につけるとともに、作品の背景にある異文化の理解を深める。	
	英語文学講読b	アメリカ南部ルネサンスの代表的な小説家の短編作品の講読を通して、英語のさまざまな表現を学びながら、文学作品を鑑賞する。鑑賞に当たっては、とりわけ作品中に情景や人物の心理描写として描かれる比喩的表現描写に着目し、その表現がどのような意味をもつ可能性があるのかについて考察していく。一通り読解した後は、作品についての感想、意見を発表する場を設けることにしたい。情景・登場人物の心理描写を理解することを通して、英語の豊かな表現を身につけるとともに、作品の背景にある異文化の理解を深める。	
	比較文学	文学研究の方法論としての比較文学を歴史と現在までの発展を概論する。①十九世紀の後半に国別文学の相互影響から始まったいわゆる影響研究が比較文学の最も基本的な方法論であり、近代日本文学における欧米文学の影響や前近代中国文学におけるインド文学の影響などを具体例(夏目漱石の小説等)の分析を通じて説明する。②精神分析、記号論、ジェンダー論、脱構築などの理論を紹介し、作品分析の応用を例示して比較文学の学際的方法を概説する。③翻訳論と世界文学を比較文学の重要な分野として具体例の分析を通じて紹介する。	
Ⅱ類	異文化コミュニケーション	本講義では、異文化間コミュニケーション論の誕生から現在まで発達した理論と応用例の説明、身近な異文化間の事例や世界で起こっている異文化間問題に対するこれら理論の応用について学ぶ。社会の国際化が必要とされる柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とし、異文化間コミュニケーション論の現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることを目標とする。	

日本文化入門	○	日本伝統文化の概要を紹介する講義である。古事記と日本書紀の成立から始め、和歌の成立と隆盛、平安時代と王朝物語、三大随筆と無常観、俳句の季語に代表される日本の季節観を説明し、日本の食の歴史、建築と庭園の特徴、世界で日本文化を代表する能楽と茶道を比較文化的に考察する。そして江戸時代の町民文化として開花した文楽、歌舞伎、落語の歴史と近代以降の発展を紹介する。  (オムニバス方式/全13回) (42 御船明彦/6回) 古事記・日本書紀の成立、三大和歌集、源氏物語、三大随筆、平家物語、日本人と漢詩 (4 呉衛峰/7回) 俳句、日本建築、食文化、能楽、茶道、日本芸能	オムニバス方式
文化人類学	○	本講義では、人類学を「人間とは何か」を探究する学問として、また世界に残された知恵と経験を「私たちはどのように生きるべきか」に注ぎ込む研究分野として位置づけ、今日「他者」とともに生きることはどのようなことかについて考えていく。文化人類学の基本的な概念、方法論について理解し、人類の多様な営みについて具体的に学ぶことで、それまで自明としてきた自身の認識の枠組みを問い直し、別の可能性とともに世界を想像する力と柔軟さを養うとともに、現代の抱える諸課題について考察する力を培い、生きることへの理解を深めることを目標とする。	
質的調査法	○	授業は講義形式を基本とし、まずは質的調査についての基礎的な方法論にくわえて、調査実例をもとに、インタビューと資料の分析方法について学ぶ。それを踏まえ、受講者が実際にインタビュー調査を行うことで、質的調査についての理解を深める。	
グローバル化時代の地域社会	○	明治以降、日本の地域社会は近代化、国際化、グローバル化に向き合ってきた。この授業では、まず近代以降、どのように農山村の人びとが国民意識を獲得し、いかに他者と出会ってきたのかを確認する。次に、山形県や庄内地方が戦争や国際化で経験したことを学んだうえで、現代の生活世界を支える多様な外国人との共生を考える。なお受講生は各自の視点から地域社会のグローバル化について調べた成果を報告をすることが求められる。	
英国森林文化論		森林文化論で扱われる内容は多岐にわたる。具体的には、森を舞台に語り継がれている民話や伝承、森を取り巻く歴史上の出来事、森の保護・保全に関わる施策や法律、鉄づくりや炭焼きといった森の産業、近隣住民の入会・慣習、森林観や自然観、思想や信仰などである。この授業では、英国人と森とのかかわりを歴史的に考察し、代表的な森を取り上げながら、英国の森林文化の諸相をさぐる。	
英米文化論a		アメリカの人口の約15%を占めるとされる黒人（アフリカ系米国人）に関する資料を取り上げ、アメリカの南北戦争前後の時代から公民権運動に至るまでの黒人差別の歴史、及びその差別と闘ってきた人々の歴史を、英語の文献、文学作品や資料の抜粋を読みながらたどっていく。併せて、歴史的事実を描いた映画を視聴することで、それらの理解を深める。これらを通して、アメリカ社会や文化に関する理解を深めるとともに、原典資料の講読を通して、英語の資料を読み取る能力を向上させる。	
英米文化論b		本授業の主題である「英米文化」をめぐるさまざまな問題について、歴史や現代の事例を用いて多角的に検討し、異文化理解のための基本的視座と方法を学ぶ。到達目標は以下の(1)～(3)である。 (1) 授業で学んだ英語圏世界の歴史、社会、文化に関する基本的な内容と、文化的多様性を踏まえた異文化理解の現状ならびに課題を理解している。(2) 相互に異なる文化的背景を持つ人々の交流の経緯と現状を、英語圏世界の事例を中心として学び、また、そうした学びを通じて文化の多様性を追体験し、異文化交流の意義について理解している。(3) 授業で学んだ視座と方法を、さまざまな文化的事象に適用して考察し、期末試験の答案を作成できるようになる。	
国際化とインクルーシブ社会		現代社会においては、性別、年齢、エスニシティ、職業、障害の有無、その他の属性により社会的に排除をされることがない、インクルーシブ（包摂的）な社会を構築することが世界各国の一つの共通目標となっている。本科目では、社会政策の視点を中心に、特に先進諸国においてソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）という概念が誕生した背景（社会的排除の実態等）、インクルージョン概念をめぐる理論と政策について学ぶ。その上で、各国におけるインクルーシブ社会の構築における労働、障害、児童等の分野に関する国際条約や国際機関の役割、国家間或いは市民組織間の交流と連携の役割について学修する。	
サブカルチャー論		元来メイン（主流）に対する「カウンター（対抗）」を含意するサブカルチャー。しかし明確な「敵」が見えづらくなった現在、メインとサブの線引きが困難になっている。こんな時代、サブカルチャーは何のために存在するのか。この講義ではサブカルチャーを構成する諸要素を、歴史的・社会的に分析し、上記疑問やそれに伴う現代的課題への解答を導く。	

映像文化論		映像は近代化の流れの中で最も現実（リアル）に接近した、総合的表現技法である。さらに映像作品の多くは、やはり近代化とともに社会に顕在化した諸矛盾に対し、あるいは未だ潜在している社会的課題に対し、意識的にそれを掘り下げ、疑問を呈してきた。この講義では特に社会的課題として、異文化間の葛藤・共生・エスニシティとアイデンティティ・移民・マイノリティの表象などのテーマを描いた国内外の映像作品を取り上げ、多文化社会の現実を知り、共生のための方策や未来に向けての可能性について考察する。	
国際メディア論		国際社会が分断と対立を深めるなかで、メディアが国家や人種を超えた協調と連携、さらには多文化共生に果たす役割について考える。長い間、新聞やテレビなどの既成メディアは、論調が保守系かリベラル系かを問わず、歴史観や文化、伝統については自国中心主義が支配的だった。しかしSNS上でフェイク・ニュースが横行し、他者への不寛容な意見があふれる状況になると、メディアはこうした傾向に対抗する存在として、異なる価値観をつなぐ役割を従来以上に期待されるようになっていく。訓練されたジャーナリストが、国境を越えて協力する国際的な調査報道が増えているのは、その一例と言える。動画コンテンツにおいても、米国系プラットフォームが日本語や韓国語の作品を数多く制作、配信するようになり、国境の壁は確実に低くなっている。民主主義や多様性の復権をメディアの将来とともに展望する。	
庄内の食と文化		大学生活の基盤となる山形県庄内地域の食と文化について学び、自らの言葉で庄内地域について表現することができるようになることを目指す。授業前半は講義を通して、庄内地域の食文化の歴史と「ユネスコ食文化創造都市」としての鶴岡市を中心とした地域の取り組みについて学ぶ。授業後半では、講義及びフィールドワークを通して、出羽三山の歴史と信仰、庄内地域における自然環境との共生の文化について学ぶ。以上の学びを踏まえて、庄内地域に関するプレゼンテーションを構成し、発表を行う。  (10 横田浩一/3回) 食文化とは何か、食文化の歴史、ユネスコ食文化創造都市としての取り組み (10 渡辺暁雄/6回) ガイダンス・目標設定、北庄内の自然環境、中間まとめ、発信準備（調査分析、プレゼンテーション練習） (37 バンティング ティモシー/3回) 出羽三山の歴史・信仰・文化・観光 (10 横田浩一・10 渡辺暁雄・37 バンティング ティモシー/1回) 庄内の食と文化に関するプレゼンテーション	オムニバス方式 共同（一部）
日本外交史		本講義では、ペリー来航以降のいわゆる近代における日本の外交関係を中心として、日本と各国における二国間関係の推移や日本と国際社会との関係についての理解を深めるとともに、その時々の日本の国内情勢を確認することで内政と外交の関係性についての考察を行う。本講義では、政府間の交渉だけでなく、文化の交流や摩擦の最前線にある移民の置かれた状況など、民間における交流についても触れていくことにより、現在の国際社会における諸問題を考察するための基盤となる知識と理解を身に付けることを目的とする。	
コミュニケーションの心理学		本授業では、コミュニケーションの基礎から応用まで、心理学的な視点から体系的に学ぶ。コミュニケーションの定義やモデル、自己呈示、アサーション、ノンバーバル、傾聴といった個人スキルから、家族、チーム、ソーシャルメディアにおける集団コミュニケーション、さらには異文化、メディア、健康といった応用領域まで、多岐にわたるテーマを扱う。講義と実践的な演習を通して、効果的なコミュニケーション能力を習得し、現代社会における様々なコミュニケーションの課題に対応できる力を養うことを目指す。	
多文化共生演習		国籍やエスニシティの異なる人々が地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生社会の実現に向けて、外国人住民の抱える生活課題やニーズを理解し、外国人の生活を支える関連法制度、社会資源について学ぶ。また、地域における外国人住民への支援、関係機関等との連携に必要なとされるファシリテーション、コーディネーションのスキルを養う。 尚、本科目は「多文化共生コーディネーター養成プログラム」の必修科目として開講する。 (14 菊池哲佳/5回) 外国人住民の抱える生活課題とニーズ、在留外国人に係る法制度、多言語多文化に配慮した情報提供、外国人住民と災害支援、外国人の就労支援 (14 菊池哲佳・5 武田真理子/2回) 多文化共生のためのコーディネーション、まとめ (5 武田真理子/6回) 多文化共生コーディネーターの役割、子どもの支援、外国人と保健・医療・福祉、課題レポート発表、外国人支援におけるファシリテーション	オムニバス方式 共同（一部）
多文化フィールドワーク1		本科目は「多文化共生コーディネーター養成プログラム」の必修科目として開講する。国籍やエスニシティの異なる人々が地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生社会の実現に向けて、外国人住民の生活を支える社会資源の役割、その支援方法と課題についてフィールドワークと演習形式により学習する。本科目では社会資源の内、日本語教育と就労支援について学ぶ。	

	多文化フィールドワーク2		本科目は「多文化共生コーディネーター養成プログラム」の必修科目として開講する。国籍やエスニシティの異なる人々が地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生社会の実現に向けて、外国人住民の生活を支える社会資源の役割、その支援方法と課題についてフィールドワークと演習形式により学習する。本科目では社会資源の内、子ども支援と学校教育、保健・医療・福祉について学ぶ。	
Ⅲ類	国際社会学	○	現代世界を成り立たせている基本的な枠組みや概念を理解し、世界の現状を多面的・多層的視座から考えることを目的とする。この授業では、近代以降、国民国家と資本主義がわたしたちの生の在り方に決定的な影響を与えるようになったことをふまえたうえで、世界を分かちさまざまな境界や世界を構成しているものについて学ぶ。また、グローバル化による境界の再編や分断をのり越えようとする動きについてもとりあげる。	
	国際関係学	○	政治とは社会的価値の権威的配分である。そして平和、経済発展、人権保護、環境保全等の問題は、国際社会の重要な価値であり、その配分のあり方に関して、何らかの意思決定が求められる。それらの価値を誰が、どのように、どの程度享受し、その費用は誰が負担すべきかが重要なテーマである。本講義は、そのような国際社会における社会的価値の権威的配分の場合や諸制度、アクター、それに対する考え方などの基礎知識の習得を目指す。	
	移民・難民論	○	経済活動のグローバル化、人口動態の変化、戦争や紛争等により、いま国境を越える人の移動の拡大が続いている。こうした認識を基点として、この授業では、まず人の移動の歴史や現代世界におけるさまざまな越境の事例を紹介し、人間の移動の多様な実態について確認する。そのうえで、日本社会を焦点をあてながら移民や難民と呼ぶ者たちをどのように受け入れてきたのか／こなかったのかを解説する。	
	グローバル社会と経済	○	グローバル社会と経済についての入門的内容の授業。グローバル社会の問題として食料、環境、資源問題をケーススタディーとともに議論する。内容は貧困と環境、外部性、環境政策、コモンズ、地球温暖化と食料生産、途上国の農業開発等を含む。学生は世界で起こっている食料、環境、資源の諸問題についてアジア、中東、アフリカの事例とともに学ぶ。 This course is an introductory course of the global society and the economy. As important issues of global society, food, environment and resource issues are discussed with case studies. Topics include poverty and the environment; externality; environmental policy; commons and the regional resources; global warming and food production; and agricultural development in developing countries. Students learn the real-world issues of food, environment and resources with case studies in Asia, Middle East and Africa.	
	社会調査演習		本授業では、量的調査の基本的な理論と方法を学び、実際に調査を企画・設計・実施・分析・報告することで、社会調査の実践的なスキルを身につけることを目的とする。特に、アンケート調査を用いたデータ収集・統計分析を中心に、仮説の構築から報告書の作成までの一連のプロセスを実践的に習得する。また、得られたデータを適切に解釈し、社会課題の分析に活用する力を養う。	
	国際社会と法		国際社会と法との関わりに関する基礎的知識、および国際法の基本的枠組みを学び、より詳しい専門学修への橋渡しを行う。国際社会の基本的枠組み（国家の役割、国際社会と構成員、国際紛争の解決）を学んだあとで、個別のグローバルな人間活動を対象とする法分野（人権、環境、経済活動）、平和構築（戦争違法化、国際人道法など）を学ぶ。これらの学修により、国際社会を取り巻く諸課題の解決のために必要な基礎的知識を身につける。	
	農業食料論		農業と食料経済学に関して主に食産業と食市場に焦点を当てて議論する。グローバル化の中で成長が著しくダイナミックに変遷する食料産業について動向を概観し、食料安全保障、食料供給、貿易政策、開発援助の役割を理解する。内容は、食料市場、食料危機、経済発展期の食料セクター、グローバリゼーションと食料市場、NIESや発展途上国と食料市場、食料需要、市場政策、食料産業、国際フードビジネス等を含む。学生は日本や世界における農業と食料問題に関連した理論と実際を学ぶ。 This course is a lecture of Agricultural and Food Economics focusing on the food industry and food markets. We overview food industry which is rapidly growing with dynamic changes and understand the role of food security, food supply, trade policies and development aid. Topics include food markets, food crisis, the food sector during economic development, globalization and food markets, NIES, developing countries and food markets, food demand, food market policy, food industry, and food business. Students learn theories and the practices of the issues related to agriculture and food.	

		国際社会におけるグローバルコモンズ（国際社会共有の資源や空間）と法との関わりに関する基礎知識および専門知識を学びます。この授業では、生態系や環境、海、宇宙、サイバー空間といったグローバルコモンズに対し、国際社会がどのような法的枠組みを有しているのか、あるいはどのような法的枠組みを必要としているのかについて学修します。この授業を通じて、現在議論されている国際社会の課題を理解し、それに対する解決のための視点を養います。	
	国際協力・開発論	本科目では、国際開発・協力学が射程に収めている問題群の全体像を簡潔に紹介し、その問題群を理解することを目的とする。また、各々の分野の諸課題に対して、国際社会がどのような考え方をもって対応しようとしているかを紹介し、理解してもらうことを目的とする。	
	NPO・NGO論	山積する社会問題に、政府とも企業とも異なるやりかたでアプローチしていく市民の活動がNPO・NGOである。この授業では、主に日本国内で活躍するユニークなNPO・NGOの事例をもとに、①それはどんな社会問題に対する活動か、②どういう点はその活動の（政府や企業にない）強みか、③活動の結果なにが生じたか、を検討し、NPO・NGOの実情、その達成と課題とを学んでいく。	
	人権とソーシャルワーク	1948年の世界人権宣言により、人権は世界における自由、正義及び平和の基礎であり、国境を越えた人類の普遍的な価値であることが示された。ソーシャルワークはその普遍的な価値を守るための理論と実践方法であり、2014年の「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」では、「社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である」と定められた。本科目では、ソーシャルワークの理論と方法を学び、国内外の多様な人々の人権をめぐる課題について学習する。	
	東南アジアの政治と社会	本科目では、現代の東南アジア世界の形成過程を概観。その後、東南アジアの国の事例として、フィリピンについて、政治・社会構造、そしてその変化を歴史過程の中で見る。その中で、フィリピンの政治・社会的課題を検討する。また、日本にも関係する問題を適宜取り上げる。特に、フィリピンの民族問題とテロリズムの問題、軍事・外交・安全保障問題については、若干詳しく見る。	
	国際経営論	近年、企業のグローバル化は着実に進んでいるが、例えば製造業で見ると、進出目的によって、進出地域やサプライチェーンのステージ（製造か販売かなど）はそれぞれ異なる。本講義では、まず、産業立地論の視点から、製造業における最適な進出先について、国単位に留まらず、地域単位、あるいは工業団地単位で議論を行う。次に、飲食業界や教育産業といったサービス業を中心に、海外進出のトレンドについて、おもにJETROによる配信資料を用いて議論を行う。 対象国としては、経済協定の活用度や日系企業の進出状況を鑑み、ベトナム、タイ、中国、インドを中心とする。なかでも、山形県庄内地域はベトナムからの技能実習生が多いことを踏まえ、ベトナムへの投資を積極的に行う、キヤノン、富士フイルムBI、ヤマハ、ニプロ、エースコック、双日、住友商事、東急、イオンといった企業に着目し、これら企業のグローバル経営戦略に関して議論を深める。	
	国際観光論	戦後、我が国では国際的な信頼回復を得ながら査証発行要件の緩和、交通の発達、円高等の必要条件を満たし、今日まで多くの国民の海外旅行を可能にした。観光の語源は「光を観る(中国語)」だが、異なる国や文化の人がその地を訪れることにより地域が脚光を浴び、経済的に潤い、地域住民の文化的アイデンティティの再認識に繋がる一方で、世界各地で伝統文化の崩壊、感染症の拡大等を引き起こした例は枚挙にいとまがない。 2003年、積極的訪日（インバウンド）客取込み政策「Visit Japan」が国策として実施されて以来、その数は留まるどころを知らず、15年にはついにその数がアウトバウンド客を上回り、19年には開始年の6倍にあたる3000万人が来日した。アフターコロナの今日、訪日客の取込みが地域活性化の鍵として期待される一方、宿泊・飲食業における人手不足や、訪日客への対応方法（言語、宗教食等）や、オーバーツーリズムなどの問題も顕著となっている。 この科目では、古今東西問わず海外の観光産業の事例を学び、国際観光と地域（特に地方）活性化との関係について、主に国内の事例をもとに考えつつ、実際の旅行商品を制作してみるなどを通じて、国際観光への理解を深める。	
応用演習科目	プロジェクト型応用演習 I	これらの演習では、学生たちが実際の課題と向き合い、課題発生の要因を分析し、それに対する解決方法を一人ひとりが模索することを目的とし、開講する。即ち学生一人ひとりが主体的に課題と向き合い、考察することが求められる。これにより地域や国際社会等の課題について、発生する背景等を考察し、調査・分析等により課題解決策を見出し実践する力を育成する。	

		プロジェクト型応用演習Ⅱ		これらの演習では、学生たちが実際の課題と向き合い、課題発生の要因を分析し、それに対する解決方法を一人ひとりが模索することを目的とし、開講する。即ち学生一人ひとりが主体的に課題と向き合い、考察することが求められる。これにより地域や国際社会等の課題について、発生する背景等を考察し、調査・分析等により課題解決策を見出し実践する力を育成する。なお、プロジェクト型応用演習Ⅰとの合同授業形式で開講するため、本演習の履修者にはプロジェクトへのより高度な貢献が求められる。	
		海外探究型実践プログラム		国際コミュニケーション学科が目指す、地域社会のグローバル化やグローバル社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成するため、実際に海外の現場で現地の人々と一緒に働き、文化や価値観の違いを理解するとともに、そうした違いを超えて共創するために必要な技能を身につける。例として、日本が開発途上国のビジネス人材育成等のために実施しているプロジェクトにおいて、現地の方に日本語や日本文化を教えたり、業務のサポートを行うことを計画している。	
		社会実習（インターンシップ）		社会の要請に応えられる人材の育成を目的として、公益学科と共通の科目として実施する。実社会の求めるスキルを学ぶために、学生は企業や団体、官公庁等で就業体験を行う。実習に行く前には、実習先の先の概要、業務内容、業界の動向などについて調べた上で、実習におけるテーマを設定して実習に臨む。実習後にはどのような体験を通じ、どのようなスキルが身についたかについてレポートをまとめ、報告会で成果を発表する。	
	専門演習	専門演習Ⅰ	○	ディプロマポリシーで示した能力を着実に身につけるため、学生ごとにそれぞれ1名の指導教員の下、各科目の学びを通して得た知識や技能を使って、卒業研究に取り組む。「専門演習Ⅰ」では、各自が関心を抱き、設定する研究テーマをもとに、年間を通して現地調査や専門文献の探索・論読による課題の発見や分析を行い、口頭発表やレポート作成などを織り交ぜて専門知識を深めつつ、年度末までに学生それぞれが自身の卒業論文のテーマを確定させる。	
		専門演習Ⅱ	○	ディプロマポリシーで示した能力を着実に身につけるため、学生ごとにそれぞれ1名の指導教員の下、各科目の学びを通して得た知識や技能を使って、卒業研究に取り組む。「専門演習Ⅱ」では、確定した卒業論文のテーマを中心に、学生が研究に取り組むとともに、指導教員による個人指導やグループ指導を受けながら、口頭発表やレポート作成を繰り返し、期限までに卒業論文を完成させ、提出する。研究成果を広く発信するため、論文完成後に発表会を行う場合もある。	
発展教育科目	発展外国語	Active Listening and Reading（中級）		国際的なビジネス分野で必要とされる英語コミュニケーション能力を養うため、ビジネス場面における英語の聴解力と読解力を養成する。リスニング・リーディングの方法論について学んだ後、さまざまな場面の英語素材を用いた演習を行う。リスニングについては、シャドーイングなどリスニングに効果があるとされる音読練習等のトレーニング方法を実践的に学ぶ。リーディングについては、英語の語彙力向上を図り、スキミングやスキミングなどの速読のためのスキルを実践的に学ぶ。	
		Active Listening and Reading（上級）		ビジネスシーンにおける高度なリスニング力とリーディング力の獲得を目的として、戦略的なリスニング・リーディングの方法論について学んだ後、多彩な英語素材を用いた演習を数多く行う。リスニングについては、リエゾンや同化など多くの日本人が苦手とする音声学的現象に着目した訓練をはじめ、シャドーイングやオーバーラッピングなどリスニングに効果があるとされる音読練習等のトレーニング方法を実践的に学ぶ。リーディングについては、語彙の吟味や構文分析に基づく精読と、スキミングやスキミングといった速読の両方をバランスよく実践して学ぶ。	
		Intensive Listening and Reading		ビジネス分野のより高度なリスニングとリーディングのスキル獲得に向けた具体的な手法とストラテジーを英語で集中的に学ぶ。ペアワークとディクテーション、ネイティブスピーカーの英語を聞いてリスニングの練習などを行う。テーマは、①ビジネス英語、企業、販売、製造、人事についての話題、②職業別、専門分野別の英語、丁寧な依頼表現、予定のスケジュール管理、提案の方法、③日常英語、カジュアルとフォーマルな表現の違いなどについて、英語で実践的に学ぶ。	
		中国語リスニングⅡ		中国語リスニングⅠに引き続き、難易度がより高い会話や文章を聴き取る練習を繰り返しリスニング力の更なる向上を目指す。会話の聴き取り練習では疑問詞疑問文を中心とした疑問表現の聴き取りに重点をおき、文章の聴き取り練習では全体的な内容理解と要点の把握に重点をおいて練習する。聴き取り練習を通して既習の語句・文法の定着をはかるとともに未習の語句・文法も習得し表現の幅を更に広げていく。中国語検定3級レベル以上のリスニング力を養う。	

		中国語中級レベル以上の文章を講読しながら、中級から中上級までの文法を一通り身につけてもらい、長文の理解ができるようになることを目標とする。①接続詞や長い修飾文の多い複文の構造を分析し、中国語の勉強においてよくある主文と修飾文の主語が混同することがなくなる。②状語（連用修飾）と補語の違いをしっかりと識別し、中国語の特徴ともいえるさまざまなタイプの補語を理解できるようにしてもらおう。③規範的文章と、近年インターネットの影響で一般化してきた新語や新しい表現法を身につける。辞書を借りて中国語検定2級程度の中国語文章が読めることを目指す。	
		中国語中級レベル以上の作文を練習し、文法の規則と異なる位相の中国語の仕組み・内的論理を身につける。①自由感想文・論述文・ビジネスメールなどさまざまなタイプの文章を難易度順に書く練習をし、教員の添削指導を通じて実践的中国語文章が書けるようになる。②くだけた文体とフォーマルな文体を語彙の使い方とともに練習する。③中国語文の構造をSV0の簡単なものからさまざまな助詞と補語、長い修飾語など、講読で理解したものをしっかりと復習し、能動的に作文に生かしていく。受け身的な「講読」から能動的な「作文」へ中国語検定2級程度の中国語の能力のレベル到達を目指す。	
教職課程	英語科教育法Ⅰ	英語教育の理論と実践に関する基礎・基本を身につけるとともに、英語指導観を確立することを目標とする。第1回から第7回では、公教育としての英語教育の役割や意義及び指導対象となる英語の姿を“World Englishes”の文脈でとらえたうえで、学習指導要領、教科用図書についての理解を深める。第8回から第14回では、技能・領域ごと及び技能統合型の言語活動についての理論を学んだ後、マイクロティーチングⅠ～Ⅲを通して実践的に理解を深める。	
	英語科教育法Ⅱ	英語の言語学的な特性について理解するとともに、授業設計や学習評価に関する重要事項を理解することを目標とする。第1回から第3回は、音声・発音、文字、語彙や文法等の言語材料、第4回と第5回は異文化コミュニケーションやICT活用の視点を生かした授業づくりについて学ぶ。第6回から第8回までは英語で進めるインタラクティブな授業、第9回は生徒の特性や個人差、習熟度に応じた指導、第10回から第14回は観点別評価を軸に学習評価の理論について演習方式で学ぶ。	
	英語科教育法Ⅲ	学習到達目標を踏まえた授業設計について学んだ後、それをもとに学習指導案とテストを作成できるようになることを目標とする。第1回から第6回では、学習指導案の基本構造を学んだ後、学習指導案を作成する。第7回から第10回では、英語科教育法Ⅱで学んだ評価に関する理論を基にペーパーテストとパフォーマンステストを作成する。第11回から第14回では、マイクロティーチングⅣとして、1教時分の指導案を作成し模擬授業を実施した後に、合評会において協働的な振り返りを行う。	
	英語科教育法Ⅳ	第二言語習得論（以下SLAと略記）の知見を授業に活かす手法を身につけるとともに、学校における授業以外の英語指導の多様なニーズに対応する力を身につけることを目標とする。第1回から第7回では、SLAの知見のうちから授業づくりに応用可能な5つの領域について学んだ後、マイクロティーチングⅤを通して、それらの知見を生かした言語活動を設計・実施する手法を学ぶ。第8回と第9回では、授業以外の多様なニーズに対応する英語指導、第10回と第11回では、英語教師としての力量の維持向上のための研修、第12回から第15回では、英語教育をめぐる最新の動向や課題について学ぶ。これらを通し、英語科教育法Ⅰ～Ⅳで学んだことを整理して教育実習に備えるとともに、英語教師としての自己のあり方を展望する。	
留学外国語	短期留学a	本科目は、英語の言語運用能力と多文化共生力を身につけられる科目である。留学時期は8月に3週間を予定し、授業時間数は60時間で授業外の多文化共生のsummer schoolアクティビティ（アイルランドの文化的な施設の見学など）は週6時間で合計18時間となる。このプログラムの宿泊施設はホームステイで、3週間で現地の人と多国籍の学生と交流ができる。	
	短期留学a（オンライン）	本科目は、英語の語学学習や多様な文化理解の機会を提供するもので、特に海外渡航の代替措置の提供が必要と判断された者に対し、オンラインを通じて留学の機会を提供するものである。留学時期は2月または3月に3週間を予定し、授業時間数は60時間で、そのうち多文化共生についての授業はおおよそ11時間（テーマはカナダ先住民文化など）である。なお、授業外の現地の人とのオンライン交流時間は合計10時間である。	
	短期留学b	本科目は、英語の言語運用能力と多文化共生力を身につけられる科目である。留学時期は2月から3月の5週間を予定し、授業時間数は100時間で、そのうち多文化共生についての授業はおおよそ10時間である（テーマはオーストラリアの生活など）。授業外の多文化共生のアクティビティ（メルボルン市の文化的な施設の見学など）は週2時間で合計10時間である。このプログラムの宿泊施設はホームステイで、5週間で現地の人と多国籍の学生との交流ができる。	

	中期留学a		本科目は、英語の言語運用能力と多文化共生力を身につけられる科目である。留学時期は6月から9月までの10週間か、8月から11月までの10週間で予定し、授業時間数は200時間で、そのうち多文化共生についての授業はおよそ20時間である。授業外の多文化共生のアクティビティ（現地の施設の見学など）は週2時間で合計20時間である。このプログラムの宿泊施設はホームステイで、10週間で現地の人と多国籍の学生との交流ができる。	
	中期留学 b		本科目は、英語の言語運用能力と多文化共生力を身につけられる科目である。留学時期は6月から9月までの12週間か、8月から11月までの12週間で予定し、授業時間数は240時間で、そのうち多文化共生についての授業はおよそ24時間である。授業外の多文化共生のアクティビティ（現地の施設の見学など）は週2時間で合計24時間である。このプログラムの宿泊施設はホームステイで、12週間で現地の人と多国籍の学生との交流ができる。	
	中期留学c		本科目は、英語の言語運用能力と多文化共生力を身につけられる科目である。留学時期は6月から9月までの15週間か、7月から11月までの15週間で予定し、授業時間数は300時間で、そのうち多文化共生についての授業はおよそ30時間です。授業外の多文化共生のアクティビティ（現地の施設の見学など）は週2時間で合計30時間である。このプログラムの宿泊施設はホームステイで、15週間で現地の人と多国籍の学生との交流ができる。	
キャリア 発展	アントレプレナーシップ入門		自らの意思で事業を起こして、地域や社会を変えていく「起業マインド」を持った人材を育成することを目標とする。起業を幅広い概念でとらえ、会社を創業する起業に加え、組織内で新商品や新ビジネスを企画することも起業ととらえる。授業では、国内、海外の第一線で活躍されている多彩なゲスト講師を迎え、起業経緯、経営戦略、顧客の創造など自身の経験談やメッセージを話して頂くとともに、起業のポイントについて、グループでディスカッションしながら考察する。	共同
	アントレプレナーシップ基礎a		本演習は、社会貢献と実現可能性を視野に入れた精度の高いビジネスプランの作成を目的とする。ビジネスプランとはビジネスを行う際に、具体的なプランの立案、収益（売上や利益など）の獲得方法、資金の調達方法などを予め想定し作成するもので、起業する際の資金調達時などに用いられる。本演習では、初回はグループでプランを企画立案し、2回目は個人でプランを企画立案する。領域・事業内容は自由であるが、社会貢献と実現可能性が強く求められ、そのために活発なディスカッションも行われる。 また、本演習の最大の特徴は地元の若手起業家らが自らの経験に基づき、受講生に直接指導する点にある。そして、優秀なプランを作成したグループや個人に対しては、若手起業家らがメンターとして指導しNext10山形県大会への参加を要請する。	
	アントレプレナーシップ基礎b		中心市街地の魅力としてのカフェについて考え、実際に空き家（庭もある）を使ってテスト営業してみる。観光客に、あるいは市民に日常的に来てもらうためにはどうしたら良いか、対象地の立地分析、メニューやインテリアを検討し、テスト営業に必要な調理機器、食器、食材をそろえ、掃除し、建築家具のしつらえを整えます。所有者や関係者、地域との交渉や調整も重要です。	
	アントレプレナーシップ基礎c		本演習では、2種類のワークショップを行う。 (1) ソニーが開発した戦略マネジメントゲーム (MG) を使用し、市場動向やリスクを考慮しながら、模擬の取引を行い、経営にあたって求められる意思決定について学習する。 (2) トイドローンを用いて、プログラミング思考を学ぶとともに、ドローンの飛行計画の作成から飛行までのトライ&エラーを繰り返しながら、ドローンの可能性や新しい技術を活用したビジネス創造について学習する。  (21 青木孝弘・34 松尾慎太郎/7回) 戦略MGワークショップ、まとめ (21 青木孝弘/6回) DXワークショップ	オムニバス方式 共同（一部）
	アントレプレナーシップ応用a		本授業はこれまで履修したアントレプレナーシップ科目群で修得した知識とスキルを総合的に駆使して、個人レベルでケース分析、ビジネスプラン作成を行うことにより、より体系的な分析能力と実践能力を向上させることを目的とする。本学教員に加え、企業マインド育成プログラムの外部講師ならび起業支援機関との「壁打ち」、ならびにテスト（試行）により、ビジネスプランの成果物を練り上げる。	共同
	アントレプレナーシップ応用b		本授業は、起業マインド育成プログラムにおける海外インターンシップ科目である。約1週間の現地滞在を通じ、研修国における様々な課題とその課題を解決するための方策について、自分の五感を使い、また現地の起業家や学生と直接話すことを通じて学習する。 研修内容について、計画から実行（計画、交渉、決定、実行、変更等）に至る全過程に学生が主体的に関わり、研修国の関係者とSNS等を用いてプランを作成する。グローバルな交渉術、文化や習慣、考え方の違いを経験して、グローバル化時代のアントレプレナーシップについて理解を深める。	

教職課程の設置により開設する授業科目

教職入門		学校に対して「教師の指導力」向上を求める社会の要請は大きい。学生達が義務教育や高等教育で、担任や担任外の教師から受けた授業、生徒指導、学級生活が学校体制の下で意図的、計画的に実施されてきたことを想起させる。自己の経験を基に教師の職務の実際を学ばせる。教職は、指導者として常に学び続け、生徒の人間成長に関わっていく喜びを得ることができる職業であることを学び、免許取得の意欲付けとする。	
教育心理学		教育心理学の基礎的な概念を身につけることを第1の目標とする。また、現代の教育における諸問題を、教育心理学的観点から理解する力をつけることを第2の目標とする。	
憲法		そもそも憲法とはどのような法律なのだろうか。我々の生活にどのように関わってくるのだろうか。このような観点から憲法について考察していきたい。また、受講者の関心に応じて、質疑応答、討論の時間を設ける。立憲主義の意義、憲法の諸原理、基本的人権の意義と概要について説明できることを目標とする。	
教育原理		教育に関する基本的概念について学ぶ。また、教育に関する思想や教育に関する歴史について学ぶ。	
教育行政		日本の教育制度の仕組みや役割、政策の動向、学校をめぐる状況の変化などにより生じている諸課題や改革の方向性などについて、資料の熟読やディスカッションを通して学ぶ。	
道徳教育指導論		教育の目的である「人格の完成」の基盤となる道徳性を育てることが道徳教育の使命である。道徳科新設に至る我が国の道徳教育の歴史的な変遷を踏まえ、「中学校学習指導要領」に基づき学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育のあり方について考察するとともに、道徳教育の要である道徳科の指導法について理解を深める。	
特別活動指導法		教育の目的である「人格の完成」を目指す上で大きな役割を担うのが、「特別活動」である。本講座では、2017年改訂『学習指導要領』に基づき、集団や自己の向上を図るための話し合い活動を通し、自主的・実践的な態度を育むための「特別活動」の指導の在り方について考察する。時に演習形式を用い、意見発表し合うことにより、自己教育力の変容を期するとともに、学校現場での先駆的な実践に触れさせ、理解を深めさせる。	
総合的な探究の時間の指導法		自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育て、「知識基盤社会」において重要な役割を果たす総合的な探究(学習)の時間についての指導法について、『学習指導要領』に基づき考察する。時に演習形式を用い、意見発表し合うことにより、自己教育力の変容を期するとともに、学校現場での先駆的な実践に触れさせ、理解を深めさせる。	
生徒指導論		生徒指導について学ぶ。自らについて振り返りながら指導のあり方について考える。生徒指導の今日のあり方を理解することを目標とする。その際、校内連携も意識して生徒指導に関する自分の考えを他者に適切に伝える力を磨く。	
進路指導論		進路指導とキャリア教育について学ぶ。自らについて振り返りながら、指導のあり方について考える。進路指導とキャリア教育の今日のあり方を理解することを目標とする。その際、校内連携も意識して進路指導に関する自分の考えを他者に適切に伝える力を磨く。	
教育課程の編成とICT活用を含む教育の方法		児童生徒に対し授業を行うためには、授業理論と効果的な教育方法を身につけていなければならない。前半では、教育課程の編成とカリキュラムマネジメントなどの理論とともに、主体的・対話的で深い学びをどのように実現させていくか等の教育の方法及び教育の技術についての理解を深める。後半は、個別最適な学びと協働的な学びを実現させる通信教育技術の意義と具体的な活用についての理解と、演習を行っていく。	
教育相談の理論と方法		中学校あるいは高校で教師として働く際に必要な教育相談の知識について学ぶ。教育相談活動を適切に理解できるようになるために理論と事例を学ぶ。中高生に関わる際に必要な理論を理解したうえで諸技法を身につけ、教育実習や中高生と関わる実際の活動に活かせるようになることを目標とする。	
介護等体験		特別支援学校及び社会福祉施設における「介護等体験」（特別支援学校2日間・社会福祉施設5日間）及び事前・事後指導で構成される。事前指導では、特別支援学校、社会福祉施設に対する理解を深めるとともに、「介護等体験」に臨む際の自己目標をたてる。事後指導では、自己の体験を振り返った上で、グループワークを行い、特別支援教育・社会福祉施設についての理解を深める。	

体育と健康a		スポーツ・運動を楽しみ、生涯スポーツの重要性を学ぶ。主体的にスポーツを楽しみ、仲間とコミュニケーションをとり、円滑にプレーする。スポーツのルールを学び、守る。トレーニング(なわとび)、選択種目(バドミントン、卓球、バレーボール)	
体育と健康b		スポーツ・運動を楽しみ、生涯スポーツの重要性を学ぶ。主体的にスポーツを楽しみ、仲間とコミュニケーションをとり、円滑にプレーする。スポーツのルールを学び、守る。トレーニング(なわとび)、選択種目(テニス、バスケットボール、サッカー)	
教育実習 I		学校現場において指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教師となるための基礎的な能力と態度を身につける。	共同
教育実習 II		学校現場において指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教師となるための基礎的な能力と態度を身につける。	共同
実習指導		事前指導では、教育実習に必要な基本的な心構えや、学級活動(ホームルーム)等の意義、生徒への関わり方、学習指導のプロセスについて再確認する。事後指導では、教育実習における体験を振り返り、実習報告会において発表する。	
教職実践演習		教育実習を踏まえて教職に関する知識やスキルおよび教科に関する知識を振り返る。その上で、「履修カルテ(自己評価シート)」を参照しながら、教職の専門性、教科の知識、教材研究・開発・作成、教科指導法、生徒・同僚・保護者等との関わり方などの側面から学びを総括し、知識やスキルのブラッシュアップを図る。	共同

学校法人東北公益文科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東北公益文科大学				東北公益文科大学				
公益学部		3年次		公益学部		3年次		
公益学科	235	10	960	公益学科	195	10	800	定員変更(△40)
		3年次		国際学部				
計	235	10	960	国際コミュニケーション学科	40	-	160	学部の設置(認可申請)
				計	235	10	960	